



第3章 地域別構想

地域別構想は、市内7地域ごとに、地域の現況、アンケート調査や地域別ワークショップでの住民の意向、課題などを踏まえて、将来のまちづくりの方向性を示すものです。

なお、まちづくりの方向性については、全体構想で示されている、土地利用の方針、交通体系の整備方針、水と緑の整備・保全の方針、景観形成の方針、その他の都市施設の整備方針、住環境・市街地整備の方針に基づくものです。



1 中央地域

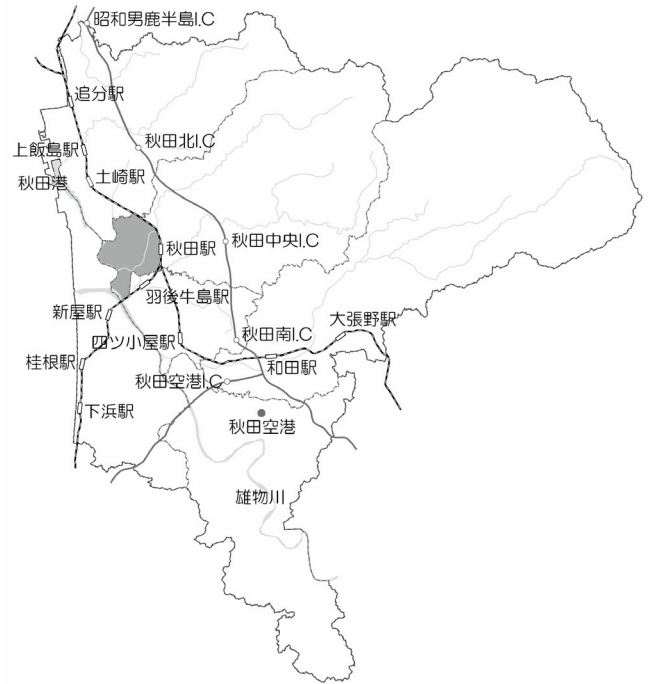
(1) 地域の概要

① 概況

中央地域は、本市のみならず、秋田県全体の拠点となる地域として、商業・業務機能、行政機能、交通機能など、あらゆる分野の都市機能が集積しています。

中心市街地は、鉄道やバスなど市内公共交通の拠点、商業・業務系施設が集積しているとともに、千秋公園などを活かした秋田市らしい街なか空間が形成されています。

山王地区には、市役所をはじめ、国や県の官公庁施設が集積しており、県の中心拠点としての役割を果たしています。また、八橋運動公園が整備されるなど、うるおいのある都市空間が形成されています。

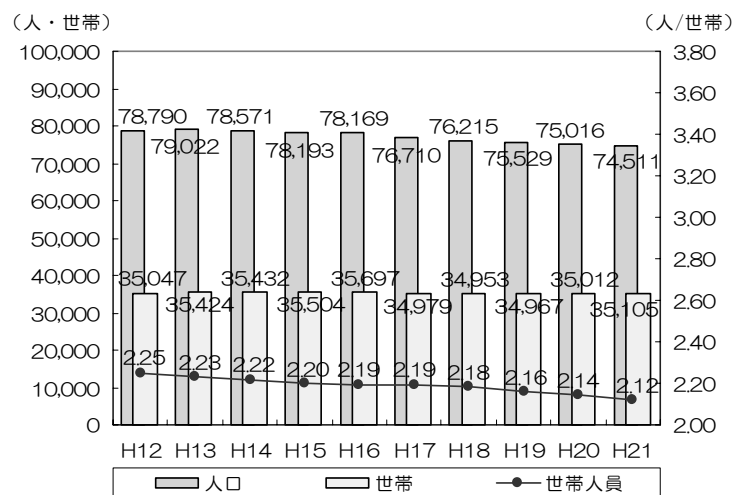


② 人口・世帯数の推移

中央地域の平成 21 年 10 月 1 日時点の人口は 74,511 人となっており、平成 12 年からの 10 年間で約 5.4% (4,279 人) 減少しています。

一方、世帯数は、平成 21 年で 35,105 世帯と 10 年間で約 0.2% (58 世帯) 増加と、ほぼ横ばい傾向を示しています。1 世帯当たりの人員は 2.25 人/世帯から 2.12 人/世帯に減少するなど、7 地域の中でも特に核家族化や単身世帯の進行が顕著となっています。

地域内の年齢別人口構成比(平成 17 年国勢調査より)をみると、年少人口(15 歳未満)が 12.5%、生産年齢人口(15~64 歳)が 65.4%、老年人口(65 歳以上)が 21.9%と、7 地域の中で 2 番目に生産年齢人口の割合が高い地域となっています。



※住民基本台帳(各年 10 月 1 日時点)より。H12,17 は国勢調査結果

③ 土地利用の状況・課題

中央地域の面積は約 1,810ha で、地域全体が秋田都市計画区域（線引き都市計画区域）に指定されています。河川部を除いたすべての地域に用途地域（約 1,450ha）が指定されており、農業地域や森林地域など、都市地域以外の地域指定はありません。

また、良好な都市景観を保全すべき地域として、千秋公園に隣接した地区に城跡風致地区が指定されています。

【商業・業務地】

本市の中心市街地には、大規模商業施設やホテル、小売店舗等が集積する商業地が形成されています。仲小路の一部はモール化され、市民の買い物の場となっていますが、近年では小売店舗数の減少に伴う空き店舗・低未利用地の増加や拠点性の低下が懸念されており、商業活力の向上・創出に向けて、良好な歩行者空間の確保や新たなイベントの創出など、ハード・ソフト両面からの対応が求められています。また、旭川沿いの大町地区では、古くからの娯楽飲食街が形成されており、現在もにぎわいをみせています。

都市計画道路新屋土崎線をはじめとする幹線道路沿いには、沿道型の大規模商業施設が進出しており、既存の商業・業務系施設とともに、後背に広がる居住環境と調和した商業地の形成が求められています。

【住宅地】

密度の高い住宅地が形成されており、近年では、マンションの進出も見られます。また、山王地区や川尻地区、秋操地区では、大規模な土地区画整理事業によって、都市基盤が整備された良好な住宅市街地が形成されています。

人口減少の影響により、空き家や空室の発生が課題となっていることから、生活利便性の高い都心部への街なか居住を促進するなど、既存ストックを活用していくことが求められています。

【工業地】

旧雄物川に沿って工業地が広がっています。

今後も、近接する秋田港周辺の工業団地との連携強化による、産業全体の活性化に向けた環境整備を進めるとともに、周辺の自然環境や居住環境と調和した操業環境の維持・更新が求められています。

【農地・自然環境】

高度な都市的土地利用が進む本地域では、まとまった農地は残されていませんが、旭川や太平川、草生津川などの複数の河川が地域内を流れ、また千秋公園や八橋運動公園、寺町地区には、貴重な緑地空間が確保されており、うるおいのある都市空間を生み出しています。

【その他の拠点・都市機能】

中心市街地には、観光拠点にもなる千秋公園およびその周辺に秋田県民会館や市立中央図書館などの文化機能が整備されており、北側の県立脳血管研究センター、南側の中通総合病院や秋田南税務署など、医療機能や一部の行政機能が整備されています。

山王地区には、市役所をはじめ秋田県庁や高等裁判所など、国や県の官公庁施設が集積しており、行政機能の中心拠点となっています。また、八橋運動公園や秋田市文化会館、県立図書館や県立体育館などのスポーツ・文化施設も多数立地しています。

市および県全体の発展を支える中心拠点として、これら既存都市機能の維持と更なる充実が求められています。

④ 交通施設の整備状況・課題

【地域間・地域内交通】

都市計画道路秋田環状線、千秋広面線、川尻総社線などで構成される都心環状道路は、周辺地域から都心への発着交通に対処する道路として位置づけられており、都心・中心市街地を取り囲むように整備されています。また、都心の通過交通を排除するための市街地環状道路として、国道7号、13号が整備されています。

本市の環状道路網を相互に連絡する分散導入路としては、都市計画道路新屋土崎線、中通牛島線などが整備されています。今後も、各路線の未整備区間については計画的な整備が望まれます。

【公共交通】

本地域には、JR 秋田新幹線、奥羽本線、羽越本線が発着する秋田駅が整備されています。また、駅西口には市内の各地域へ向かう路線バスのバスターミナルが整備され、市民のみならず県内外からの来訪者にとっても、重要な交通拠点となっています。

今後は、鉄道とバス交通の連絡性の向上による公共交通の更なる利便性向上を目指すとともに、マイカー依存からの脱却によるCO₂の排出抑制に向けたライドアンドライドの促進や新たな地域内移動システムへの移行に向けた環境整備など、ソフト・ハード両面での対応が求められています。

⑤ その他の状況・課題

【景観形成】

中心市街地は、県内外の来訪者が集まる本市の玄関口として、県都秋田のイメージアップに繋がる秋田らしい景観形成が求められています。今後は、豊かな自然環境と歴史的・文化的景観を有する千秋公園を活かしながら、魅力ある街なか景観づくりを進めていく必要があります。

山王大通りでは、沿道緑化や電線類の地中化などが進められ、本市のシンボルロードとして緑豊かな良好な都市景観が形成されています。今後も引き続き、緑環境の適切な管理や屋外広告物等の規制・誘導策の導入などにより、良好な景観を維持してい

くことが重要となります。

また、寺町地区や大町地区では、昔ながらの歴史的な街並みが残されています。こうしたエリアについても、老朽建築物の建替えに配慮しながら、貴重な街並み景観の保全を図っていくことが求められています。

（２）目指すべき地域の姿

歴史・伝統と現代がふれあう 粋なまち

- 県的发展を牽引する 高次都市機能が集積したにぎわいのあるまちづくり
- 秋田らしさと歴史・文化が香る 魅力あふれる県都秋田の“顔”づくり
- 市内外への交通拠点として 公共交通の利便性が高いまちづくり

本地域は、本市のみならず県の産業活動の中心地であり、県全体の発展を牽引する役割を担った地域です。今後も商業・業務・行政などの既存都市機能の維持・拡充を図るとともに、県都にふさわしいにぎわいと活力あふれる拠点市街地の形成を目指します。

また、秋田新幹線の発着駅である秋田駅を有する本地域は、県内外からの来訪者を迎える玄関口としての役割も担っていることから、県都秋田のイメージを形づくる“顔”として、秋田ならではの歴史・文化・自然を活かした魅力ある市街地環境の形成を推進します。

さらに、秋田駅は市民の日常生活を支える、鉄道やバス交通などの公共交通の中心拠点でもあることから、円滑な都市間・都市内移動の確保に向けて、更なる利便性の向上に資する環境整備に取り組みます。

（３）まちづくりの方針

① 土地利用の方針

【都心・中心市街地の活性化】

- 商業・業務機能や交通機能が集中する秋田駅周辺から、行政機能が集中する山王地区を、本市の都心・中心市街地として位置づけます。
- 中心市街地については、市民の生活拠点として、また県内外からの来訪者の玄関口として、商業・業務機能の維持・充実を図るとともに、行政・医療・文化機能など、多様な都市機能の集積・拡充に向けた環境整備を進め、人が集うにぎわいのある市街地の形成を目指します。

- 市役所をはじめ、国・県の様々な官公庁施設や公共公益施設が集積する山王地区のパブリックゾーンにおいては、県の発展を支える行政拠点として、引き続きその機能の維持・充実を図るとともに、行政の中心地にふさわしい、ゆとりとうるおいのある都市空間の維持・管理を促進します。
- 仲小路をはじめとする既存の商業地においては、各種イベントなど自由に使える空間づくりや歩いて楽しめる買い物環境の創出など、街なかに人を集客するためのソフト面の充実による活力の向上を促進します。
- 幹線道路沿いの沿道型サービス施設については、中心市街地との商業機能の役割分担を図りつつ、都市機能の拡充に向けた計画的な立地を誘導します。
- 東北随一の繁華街である川反地区については、秋田の観光のにぎわいの原点として、地域文化・生活風習などを印象づける街並み形成や、隣接する旭川の親水性の向上など、各種協定等のエリアマネジメントを視野に入れた景観づくりを進めます。

【快適な居住環境の形成】

- 本市の中でも、高い生活利便性を有する本地域においては、集約型都市構造の実現に向けた街なか居住の促進に向けて、空き家・空室など既存ストックの活用や民間活力の導入を図り、郊外部からの住み替えの受け皿となる高齢者向け住宅等の確保・整備を促進します。
- 商業・業務系市街地内に残された、狭隘道路や狭小敷地によって構成される従来からの低層住宅地については、適切な道路や日照・通風が確保された良好な居住環境の形成に向けて、住民や行政の協働により、地区計画や建築協定などのまちづくりルールを導入を促進します。
- 土地区画整理事業等によって、良好な居住環境が形成されている住宅地については、引き続きその環境の維持・増進を図り、住宅地周辺の幹線道路沿いの商業・業務地については、後背の居住環境への十分な配慮を求めます。

【工業地の環境整備】

- 旧雄物川沿いの工業地については、周辺風致地区の自然環境や住環境との調和に配慮するとともに、産業振興に資する良好な操業環境の維持・更新を図ります。
- 工業地内に残された低未利用地については、都心部への良好なアクセス性を活かした企業誘致の促進により、有効利用を図ります。

【空き地・空き店舗等の利活用】

- 市街地内に残存する空き地や緑地については、市民や行政など多様な主体が連携・協働しながら適切な管理を図り、ポケットパークや除雪スペースとして、良好な市街地環境の形成に向けたオープンスペースとしての活用を図ります。

- 既存施設や商業地で発生している空きビル・空き店舗については、所有者の協力を得ながら、地域住民や高齢者の交流の場などとして有効活用し、地域内の活力の創出を促進します。

【自然環境の保全・管理】

- 本市の歴史・文化を象徴する千秋公園や市民のスポーツ拠点となる八橋運動公園などの大規模な公園については、市街地にうるおいを与える貴重な緑地空間の適切な保全・管理を図ります。
- 旧雄物川、旭川、草生津川、太平川など、地域内を流れる河川については、豊かな水資源の保全・管理と親水空間としての水辺環境の整備を促進します。
- 寺町地区に残存する境内の緑地空間については、その歴史的環境とともに、適切な保全・管理を図ります。

② 交通体系の整備方針

【幹線道路の整備促進】

- 地域内を通る市街地環状道路や都心環状道路などの環状道路については、未整備区間（都市計画道路川尻広面線等）の整備を促進し、市内環状道路ネットワークの早期完成を目指します。
- 環状道路網を相互に連絡する分散導入路については、関係機関との調整を図りながら、都市計画道路新屋土崎線や中通牛島線など、整備済みの道路の適切な管理を進めるとともに、未整備区間の計画的な整備を促進します。
- 秋田駅の東西を結ぶ秋田中央道路の適切な管理と、都市計画道路千秋広面線の機能強化や千秋山崎線の整備を促進し、秋田駅東西の交通渋滞の緩和および都心部への円滑なアクセス性の確保を図ります。

【持続可能な公共交通の確保】

- 市内外へ移動する際の拠点となる秋田駅については、交通結節拠点としての機能の充実に向けて、高齢者をはじめ、誰もが安全かつ円滑に移動できる交通施設の整備を図るとともに、鉄道とバス間の円滑な乗り継ぎ環境の整備など、相互の連携強化を促進し、更なる利便性向上を目指します。
- 秋田駅を中心とした円滑な都市内交通網の整備に向けて、秋田駅と各地域の地域中心を結ぶ、幹線バス路線の連携強化を促進します。
- 駅前のターミナルや駐輪場の利活用による、ライドアンドライドなど低炭素型の地域内および都市間移動への移行を促進します。
- 都市計画道路泉外旭川線による交通環境の変化を見極め、JR との連携を図りながら、泉・外旭川地区における新駅の方向性を検討します。

【中心市街地のにぎわい創出に向けた交通環境の整備】

- 中心市街地のにぎわい創出に向けて、バリアフリー型の歩行者空間の確保や駐車場・駐輪場の整備、車両進入規制や駅前駐輪の規制緩和などの検討、道路の利用形態などによっては走行空間の分離の検討を行うなど、歩行者・自転車・車など多様な交通手段が共存できる、快適で魅力的な市街地環境の形成を促進します。
- タウンビークル環境整備事業の推進や買い物ポイントによる駐車場無料システムの導入など、中心市街地の歩行者環境の改善によるにぎわい創出を目指します。
- 仲小路における歩行者モール化などの検討を図りながら、歩いて楽しめ、滞留空間にもなる商業環境の形成を促進します。

【安全で快適な道路環境づくり】

- 電線類の地中化を進めるとともに、狹隘道路の解消や歩道の確保を図り、人に優しい道路空間づくりを進めます。
- 市街地内におけるポケットパークの整備により、快適で魅力のある歩行空間の創出を推進するとともに、地域住民をはじめとする多様な主体の協働による適切な維持・管理を図ります。

③ その他の方針

【市街地開発事業の計画的な整備】

- 秋田駅西北地区については、土地区画整理事業の円滑かつ計画的な整備を推進し、多様な都市機能の集積が可能となる、駅周辺にふさわしい市街地形成を図ります。
- 中通一丁目地区市街地再開発事業については、土地の合理的かつ健全な高度利用と都市機能の更新を図ります。また、秋田駅前地区の未整備区域については、社会経済状況も踏まえながら、立地にふさわしい市街地再開発事業の展開を目指します。

【県都秋田の魅力ある“顔”づくり】

- 本市の玄関口となる中心市街地については、県都秋田のイメージを形成する“顔”づくりに向けて、魅力ある都市景観の形成を目指します。
- 都心部の貴重な緑と歴史・文化の場となる千秋公園の活用に向けて、公園と市街地を結ぶ導入部の魅力創出による、中心市街地との連携強化を図ります。また、商業施設等が立地するお堀周辺では、公園との連続性に配慮した景観の形成を図ります。
- 山王大通りについては、本市のメインストリートにふさわしい沿道機能の集積を促進するとともに、良好な都市景観を形成するケヤキ並木などの緑環境の維持・保全を図ります。

- 秋田らしい都市景観の創出に向けて、電線類の地中化や建築物、屋外広告物の形態規制の導入などにより、統一性のある美しい都市景観づくりを目指します。また、地元大学との連携・協働によるまちづくりデザインの導入など、活力と魅力あふれる都市空間の創出に向けた取組を促進します。

【水と緑のネットワークづくり】

- 都市にうるおいを与える水と緑のネットワークづくりに向けて、山王带状緑地の適切な維持・管理や旭川沿いでの沿川緑化の促進など、魅力ある河川環境の創出を図ります。
- 桜やコスモスなどの良好な景観が形成されている草生津川や太平川においては、市民や行政など多様な主体の連携・協働によって、引き続き魅力ある河川景観の維持・保全を図ります。
- 秋田駅前から山王地区の官公庁街に至る一体的な地域においては、沿道緑化など連続する緑空間の創出による、緑のネットワークづくりを促進します。

【安全安心なまちづくり】

- 安全安心なまちづくりに向けて、防犯活動や除雪作業などの地域コミュニティ活動の強化・充実を図ります。
- 地域内の既存施設や公園等を活用した、地域の子ども達との交流の場の創出など、住民同士のつながりの強化に向けた取組を促進します。
- 地域内の病院と連携しながら、近隣のコミュニティセンター、集会所などで健康づくりに向けた講座を開くなど、コミュニティレベルでの医療サービスの充実を促進します。
- 地震等の災害に強いまちづくりに向けて、地域内の老朽化建築物の建て替えと耐震化の促進を図ります。また、狹隘道路が残る地区については、地区計画等の導入により、緊急車両が円滑に通行できる道路を地区施設として確保するなど、安全性の高い環境整備を促進します。

■ 中央地域構想図



2 東部地域

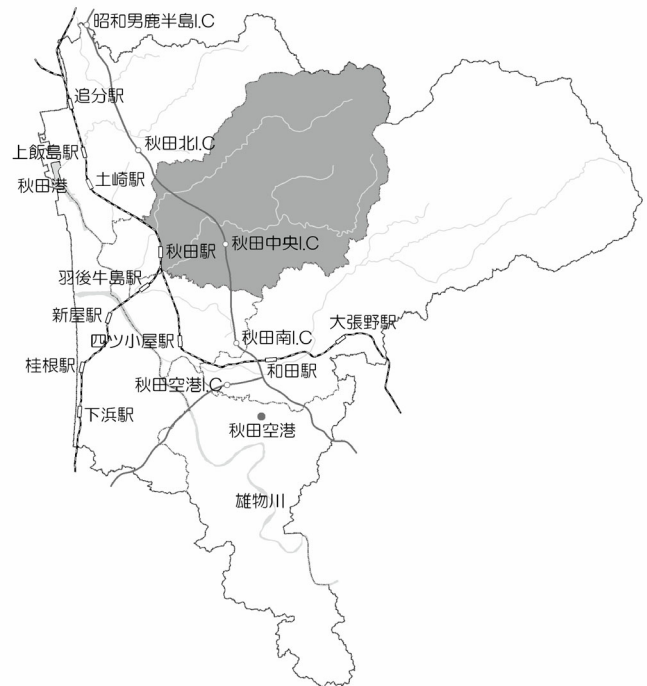
(1) 地域の概要

① 概況

東部地域は、秋田駅東口周辺に土地区画整理事業による基盤の整った住宅地が広がっており、地域内の幹線道路沿道には、多くの沿道型サービス施設が立地しています。

また、地域内には秋田大学やノースアジア大学をはじめとする高等教育機関が立地しており、学園都市としての性格を有しています。

市街地の東側には、良好な田園地帯や森林環境が広がっており、山間部には太平山リゾート公園や仁別国民の森などの観光拠点も整備されるなど、豊かな自然環境に恵まれた地域となっています。

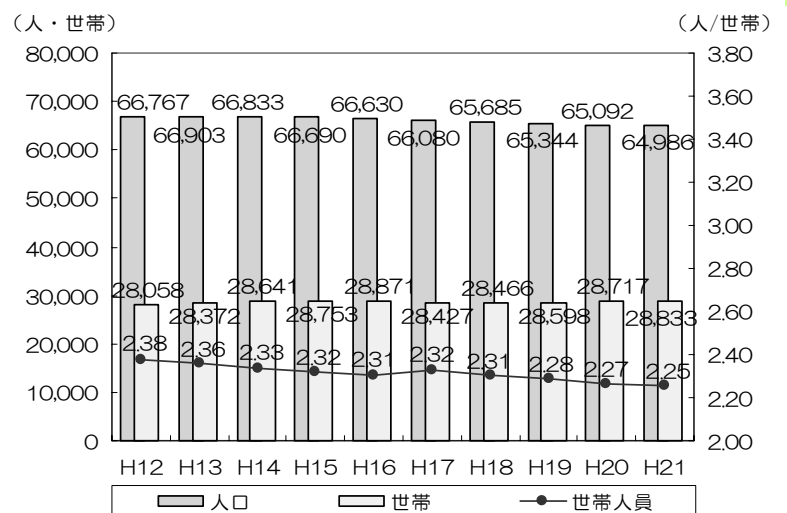


② 人口・世帯数の推移

東部地域の平成 21 年 10 月 1 日時点の人口は 64,986 人となっており、平成 12 年からの 10 年間で約 2.7% (1,781 人) 減少しています。

一方、人口減少が進む中で世帯数は平成 21 年で 28,833 世帯と 10 年間で約 2.8% (775 世帯) 増加しており、1 世帯当たりの人員も 2.38 人/世帯から 2.25 人/世帯に減少するなど、核家族化の進行や学生をはじめとする単身世帯の増加が見られます。

地域内の年齢別人口構成比（平成 17 年国勢調査より）をみると、年少人口（15 歳未満）が 11.9%、生産年齢人口（15～64 歳）が 65.5%、老年人口（65 歳以上）が 22.4% と、7 地域の中で最も生産年齢人口の割合が高い地域となっています。



※住民基本台帳（各年 10 月 1 日時点）より。H12,17 は国勢調査結果

③ 土地利用の状況・課題

東部地域の面積は約 17,930ha で、地域の約半分（約 8,270ha）が秋田都市計画区域（線引き都市計画区域）に指定されています。

秋田駅から東側に広がる市街地には用途地域（約 1,180ha）が指定されており、東側の田園・森林地域には、農業地域の農用地区域（約 1,020ha）や森林地域の国有林（約 5,250ha）、地域森林計画対象民有林^{※31}（約 8,850ha）、保安林（約 5,530ha）、自然公園地域の特別地域（4,400ha）が指定されています。

また、良好な都市景観を保全すべき地域として手形山風致地区が指定されています。

【商業・業務地】

本地域の市街地内に整備されている都市計画道路千秋広面線、秋田駅東中央線、川尻広面線の沿道に、沿道型サービス施設が立地しています。また、これらの 3 路線に接続し、本市の主要幹線道路のひとつでもある都市計画道路横山金足線の沿道においても、大規模な沿道型サービス施設が集中しており、本地域では自動車利用を前提とした沿道型の商業地が形成されています。

今後は、沿道型商業地の機能を維持していくとともに、既存商店街の活性化による地域住民の身近な買い物環境の充実など、自動車移動に頼らない生活環境づくりが求められています。

また、秋田駅東地区についても、本市の“顔”となる秋田駅と一体を成す地区として、都市機能の更なる充実を図り、拠点性の向上を推進していく必要があります。

【住宅地】

秋田駅東地区では、これまでに実施されてきた土地区画整理事業により、道路など良好な都市基盤が整備されており、そのエリアに戸建を中心とした比較的密度の高い住宅地が形成されています。また、事業が実施されていない地区でも、昔からの既存住宅地や民間開発等によって整備された住宅地が広がっています。

地域の北側には、手形山団地をはじめとする戸建住宅地が整備されており、都市計画道路横山金足線より東側の地区でも、大規模な住宅団地が開発されています。

郊外の田園地帯の既存集落においては、高齢化や人口の流出による空き家の増加や地域の活力低下が課題となっており、地域コミュニティの維持に向けた対策が求められています。また、下水道施設の整備が不十分な地区も見られるため、快適な集落環境づくりを進めていく必要があります。

【農地・自然環境】

地域の東側に広がる田園・森林地域では、山間の平野部に優良農地が確保されており、今後も貴重な農業生産の場として積極的な利用と適切な保全・管理が求められています。森林地域についても、一部が県立太平山自然公園に指定されるなど良好な環境が保たれており、引き続き、本市の貴重な緑の資源として保全・管理が求められて

います。

地域北側の丘陵地には、良好な景観を有する手形山公園があり、住宅地から望む良好な緑の空間となっています。また、地域の北側に旭川、中央から南側にかけて太平川が流れ、市街地内の貴重な水辺空間としての役割を果たしています。

【その他の拠点・都市機能】

本地域には、秋田大学やノースアジア大学など、秋田県を代表する大学が立地しており、あわせて地域の総合病院となる秋田大学医学部附属病院も整備されるなど、広域的な文教・医療拠点としての役割を担っています。

観光拠点としては、秋田駅東口に市民や来訪者の交流の場となるアルヴェが整備されています。また、郊外の山間部には、プールやスキー場などのレクリエーション施設を併設した太平山リゾート公園や豊かな森林環境を活かした仁別国民の森が整備されており、市内外からの交流人口の拡大に向けて、各施設の機能充実と積極的な活用が求められています。

④ 交通施設の整備状況・課題

【広域交通】

広域交通を担う道路として、地域内に秋田外環状道路(高速道路)と秋田中央インターチェンジが整備されています。

また、市街地から秋田中央インターチェンジに連結する都市計画道路秋田駅東中央線が整備されており、高速道路へのアクセス性向上が図られています。

【地域間・地域内交通】

県内外への広域交通を担う秋田外環状道路(高速道路)は、広域的に通過する交通を市街地から排除するための外周部環状道路としても位置づけられています。

また、都心の通過交通を排除するための市街地環状道路として、都市計画道路横山金足線が整備されています。

周辺地域から都心への発着交通に対処する道路として、都市計画道路千秋広面線、川尻広面線などが都心環状道路に位置づけられています。これらの路線は、秋田駅の東西を結ぶアクセス道路として重要な役割を担っており、未整備区間の計画的な整備が求められています。

郊外からのアクセス道路としては、県道秋田八郎潟線や秋田岩見船岡線、秋田北野田線等の主要地方道が整備されており、更なるアクセス性の向上に向けた維持・改修が望まれます。

【公共交通】

本地域には、JR 秋田新幹線、奥羽本線、羽越本線が発着する秋田駅が整備されており、秋田駅東口にはバス・タクシー・自家用車などが利用できるターミナルが整備されています。

しかし、バスによる郊外地域から秋田駅までのアクセス性・利便性が不十分であり、多くの住民がマイカーでの移動を選択せざるを得ない状況にあることから、バス路線の利便性向上によるライドアンドライドの促進など、交通量の抑制と低炭素型の地域内移動の実現に向けた環境整備が求められています。

⑤ その他の状況・課題

【景観形成】

本地域は、市街地周辺の手形山風致地区における丘陵地を活かした良好な緑地景観、市街地内を流れる河川を活かした水辺景観、市街地の東側に広がる田園・森林景観など、様々な自然資源によってうるおいのある景観が形成されています。

また、秋田駅東口地区では、土地区画整理事業によって整備された計画的な街並みが広がっています。今後は、更なる魅力づくりに向けて、建物形態のルール化など、より統一感のある街並みづくりに向けた取組が重要となります。

【大学との連携】

本地域には、県を代表する秋田大学やノースアジア大学が立地しており、地域内に多くの若者が居住しています。その恵まれた特性を活かし、大学との連携強化を図りながら、実践的な学習の場としての環境づくりや地域住民との交流の場の創出など、若い力を活用した地域活力の向上が期待されます。

(2) 目指すべき地域の姿

太平山を望む東玄関 人を育む学園都市

- 秋田駅東地区を中心に都市機能が集積する 利便性の高いまちづくり
- 地域内の大学を活かした 若者が集まりにぎわいを生み出すまちづくり
- 豊かな自然環境と調和した 居住性の高いまちづくり

本地域は、豊かな自然環境を有する一方で、秋田駅東地区を中心とした大規模な都市基盤整備、宅地化の進展や幹線道路沿道におけるサービス施設の立地など、都市化が進んできた地域でもあります。

今後は、秋田駅東地区を中心として公共交通を含む都市機能の更なる充実を図り、商業機能の誘導など生活利便性の高いまちづくりを目指します。

また、地域内に立地する大学との積極的な連携を図りながら、若者が集う活気のあるまちづくりを推進し、地域の活力創出を目指します。

本地域の恵まれた自然環境については、郊外における無秩序な都市化の抑制や市民や行政など多様な主体の連携によって適切な保全・管理を進め、市街地についても、自然環境と調和した居住性の高い環境づくりを目指します。

(3) まちづくりの方針

① 土地利用の方針

【地域中心の拠点性の向上】

- 交通の拠点となる秋田駅をはじめ、幹線道路沿道に沿道型サービス施設を中心とした商業機能を有し、また、都市基盤の整った良好な住宅地に多くの市民が居住している秋田駅東地区を、東部地域の地域中心として位置づけます。
- 秋田駅東地区周辺については、本地域の地域中心として、大学や病院などの既存機能の維持・活用とともに、商業・業務機能や文化機能など、更なる都市機能の集積に向けた環境づくりを図り、市民や学生が集う、にぎわいのある地域中心の形成を目指します。

【商業・業務機能の適切な誘導】

- 都市計画道路横山金足線、秋田駅東中央線など、幹線道路沿道に形成されている沿道型商業・業務地については、都市全体の商業地との役割分担を図りながら、地域内における計画的なサービス施設の立地を誘導します。
- 都市計画道路千秋広面線、川尻広面線の沿道商業地については、自動車利用者だけでなく、地域住民の身近な買い物の場として、関連施設が進出しやすい環境整備を進め、日常生活の利便性向上を目指します。
- 沿道型商業・業務地の形成に当たっては、後背住宅地に与える影響に十分に配慮した上で、適切な用途・規模の施設の立地を誘導します。

【快適な居住環境の形成】

- 土地区画整理事業によって、十分な都市基盤が整備された秋田駅東地区の住宅地については、引き続き良好な居住環境の維持・向上を図ります。既存住宅地についても、地区計画や建築協定などの手法を活用しながら、緑地の創出など良好な居住環境の形成に向けた取組を促進します。
- 手形山団地など、北側の丘陵地に近接して整備された住宅地については、周辺の自然・歴史環境との調和に配慮しながら生活環境の維持・向上を進め、風致地区内の良好な居住環境の保全を図ります。

- 本地域の充実した医療機能を活かした街なか居住の誘導に向けて、民間活力の導入や既存ストックの活用を図りながら、郊外部からの住み替えの受け皿となる高齢者向け住宅等の整備を促進し、集約型都市構造の実現を目指します。

【自然環境の保全・管理】

- 本地域の東側に広がる森林地域については、将来にわたって保全すべき貴重な資源であることから、都市計画法や森林法などの関連法令の適切な運用により、森林の喪失防止を図るとともに、森林環境保全への市民意識を高めるための情報提供の充実を進めながら、市民や行政、企業などの多様な主体の連携・協働により、豊かな森林環境の保全・管理を図ります。
- 旭川や太平川をはじめとする本地域を流れる河川については、市民や行政など多様な主体の協働・連携による良好な河川環境の保全活動を促進します、また、河川の整備・改修にあたっては、生き物の多様性に配慮した、河川整備を促進します。
- 河川の水質保全に向けて、公共下水道など地域特性に応じた適正な排水処理の実施を促進するとともに、排水などで河川を汚染しないよう、地域住民への意識啓発や情報提供の充実を図ります。

【田園環境の保全・管理】

- 市街地を囲む田園地帯については、無秩序な開発の抑制と優良農地の確保により、良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修により農業生産環境の向上を促進し、優良農地の保全を目指します。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足などを背景として、増加が見込まれる耕作放棄地については、農地情報の適切な管理と農地利用を推進し、耕作放棄地の発生抑制を目指します。

【郊外既存集落の維持・活性化】

- 高齢化や人口流出によって衰退が懸念される郊外の既存集落については、コミュニティの維持・活性化に向けて、他都市からの住み替えやU・J・Iターンなど、新たな人口流入の促進に寄与する都市計画制度等の導入を検討します。
- 都市計画制度等の導入により、集落で発生している空き家や耕作放棄地については、農産物の産直施設や農家民宿、体験農園などとしての利活用を促進し、都市と農村の交流の場の創出と地域の活力向上を目指します。
- 既存集落においては、下水道施設の整備や生活道路の改修など、集落環境の維持・向上を図り、流入人口の拡大を目指します。

② 交通体系の整備方針

【幹線道路の整備促進】

- 広域交通を担う秋田外環状道路(高速道路)へのアクセス性向上に向けて、市街地から秋田中央インターチェンジに連結する都市計画道路秋田駅東中央線の適切な管理を図ります。
- 地域内を通る市街地環状道路や都心環状道路などの環状道路については、引き続き適切な管理を行うとともに、関係機関との調整を図りながら、未整備区間の計画的な整備を促進します。
- 秋田駅の東西を結ぶ都市計画道路千秋広面線、川尻広面線、千秋山崎線については、都心部への円滑なアクセスを担う重要な道路として、その機能の充実を促進し、地域中心における活力向上を目指します。
- 都市計画道路明田外旭川線の計画的な整備を推進し、都心環状道路の機能向上を図るとともに、北部地域との連絡道路としての機能の強化を図ります。
- 郊外部から地域中心へのアクセス道路となる、県道については、関係機関との調整を図りながら、アクセス性の維持・充実を促進します。

【持続可能な公共交通の確保】

- 本市の玄関口であり、市内外への移動の拠点となっている秋田駅周辺については、市民の交通結節拠点として、施設のバリアフリー化や鉄道とバス交通との連携強化による機能充実を促進します。また、秋田駅東口のターミナル等の利活用を図り、ライドアンドライドなど低炭素型の地域内および都市間移動への移行を促進します。
- 郊外地域から秋田駅までのアクセス性・利便性の向上に向けて、バス路線の再編を含めた公共交通網の見直しを促進し、公共交通利用者の拡大を目指します。

【安全で快適な道路環境づくり】

- 小中学校の通学路などでは、街灯や防犯灯の設置を進めるとともに、地域住民の連携・協力によるパトロールの強化など、安全安心な道路環境づくりに向けた取組を促進します。

③ その他の方針

【市街地開発事業の計画的な整備】

- 秋田駅東地区については、土地区画整理事業の円滑かつ計画的な整備を推進し、良好な居住環境の形成を図ります。

【観光拠点の利活用による地域活力の創出】

- 太平山リゾート公園をはじめとする大型観光拠点については、恵まれた自然環境と

都市近郊の立地を活かし、積極的な PR やイベントの開催などによる有効活用を促進します。また、地域内の観光拠点や歴史・文化施設を巡る回遊ルートの設定を促進し、地域の交流人口の拡大を目指します。

- 既に整備済みの仁別サイクリングロードについても、官民連携による維持・管理や活用を促すイベント等の開催による利用者の拡大を図り、太平山リゾート公園との連携強化を目指します。

【地域資源を活かした魅力ある景観づくり】

- 地域の東側に広がる田園・森林環境については、今後も農地や森林の適切な維持・保全と多様な主体による管理を促進し、良好な自然景観の保全を図ります。
- 本市を象徴する太平山を望む良好な眺望の保全に向けて、視点場からの眺望を阻害する突出した高さの建築物の発生を抑制する、建築物の高さ制限の導入についても検討を進めます。
- 手形山公園は、良好な都市景観を有する風致公園として、市街地からの良好な景観の維持・保全を図ります。また、周辺の住宅地においても、丘陵地や寺社など、緑豊かな環境と歴史・文化資源を活かした、良好な街並みづくりを促進します。
- 旭川や太平川などの河川については、市民や行政など多様な主体の連携・協働により、川沿いの緑化や親水空間の整備など、魅力ある河川景観の創出を図ります。
- 土地区画整理事業によって、都市基盤が整備された秋田駅東地区においては、街区分けされた計画的な市街地景観の維持・育成を目指し、地区計画や建築協定、緑化協定などによる建物形態や敷地内緑化に関するルールの導入など、統一感のある魅力ある街並みづくりを促進します。

【大学を活かしたまちづくり】

- 若者が集まる活気のあるまちを目指し、地域内に立地する大学と地域コミュニティとの連携を強化し、学生の力を活かした地域活力の創出を図ります。
- 地域の防災・防犯活動や除雪作業など、日頃の地域コミュニティ活動についても、学生をはじめとする若者との連携・協力体制を強化し、誰もが安全安心に暮らせるまちづくりを目指します。

【安全安心なまちづくり】

- 安全安心なまちづくりに向けて、防犯活動や除雪作業などの地域コミュニティ活動の強化・充実や、地域内の病院や大学と連携しながら安全安心の確保を図ります。
- 地震等の災害に強いまちづくりに向けて、河川や山林の防災対策の充実とともに、地域内の老朽化建築物の建て替えと耐震化の促進を図ります。また、狹隘道路が残る地区については、地区計画等の導入により、緊急車両が円滑に通行できる道路を地区施設として確保するなど、安全性の高い環境整備を促進します。

■ 東部地域構想図

【田園環境の保全・管理】

- 無秩序な開発の抑制と適切な優良農地の確保による営農環境の維持・保全
- 農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修による農業生産環境の向上
- 農地情報の適切な管理と利用による耕作放棄地の発生抑制

【自然環境の保全・管理】

- 市民や行政、企業など多様な主体の連携・協働による、豊かな森林環境の保全・管理
- 森林の喪失防止に向けた開発制限の維持
- 森林環境保全への市民意識を高めるための情報提供の充実

【地域資源を活かした魅力ある景観づくり】

- 農地や森林の適切な維持・保全と、多様な主体による管理
- 太平山を望む良好な眺望の保全に向けた、建築物の高さ制限の導入検討
- 手形山公園周辺の住宅地では、丘陵地や寺社など、緑豊かな環境と歴史・文化資源を活かした、良好な街並みづくりを促進
- 都市基盤が整備された住宅地では、地区計画や建築協定、緑化協定などによる建物形態や敷地内緑化に関するルールの導入など、統一感のある魅力ある街並みづくりを促進

- 東部地域の風致公園として、市街地からの良好な景観を維持・保全

- 周辺の自然・歴史環境と調和する風致地区内の良好な住環境の維持・保全

【大学を活かしたまちづくり】

- 大学と商店街の連携など、まちににぎわいを生み出す交流型のまちづくりに向けたソフト面の充実
- 大学と地域との連携を図り、地域の防災・防犯などの情報共有とともに協働に向けた体制づくりを促進

- 秋田駅東西のアクセス性向上に向けた都心環状道路の整備・拡充

【持続可能な公共交通の確保】

- 市内外へ移動する際の拠点となる秋田駅については、交通結節拠点として機能を充実
- バス路線の再編による、郊外地域から秋田駅までのアクセス性・利便性の向上とバス利用者の拡大
- 秋田駅前のターミナル等の利活用による、ライドアンドライドなど低炭素型の地域内移動を促進

【郊外既存集落の維持・活性化】

- 既存集落の維持・活性化に向けて、他都市からの住み替えやU・J・Iターンなどの新たな人口増加に寄与する都市計画制度等の導入を検討
- 空き家・耕作放棄地の管理・活用による、都市・農村交流拠点の創出（産直施設・農家民宿など）
- 下水道施設の整備や生活道路の改修など、集落環境の維持・向上による流入人口や交流人口の拡大促進

【観光拠点の利活用による地域活力の創出】

- 恵まれた自然環境と都市近郊の立地を活かした、既存観光施設の有効活用
- 仁別サイクリングロードの活用を促すイベント開催等による太平山リゾート公園との連携強化
- 地域内の名所などを巡る回遊ルートの設定

【河川環境の保全・管理】

- 多様な主体の協働・連携による、良好な河川環境の保全促進
- 生き物の多様性に配慮した河川整備の促進
- 公共下水道など地域特性に応じた、適正な排水処理の実施
- 排水などで河川を汚染しないよう、地域住民への意識啓発、情報提供の充実

- 背後に丘陵を控え、寺社が立地する歴史と緑豊かな環境を保全

【快適な居住環境の形成】

- 土地区画整理事業によって、十分な都市基盤が整備された秋田駅東地区の住宅地では、引き続き良好な居住環境を維持・向上
- 既存住宅地については、地区計画や建築協定などの手法を活用しながら、緑地の創出など良好な居住環境の形成に向けた取組を促進

【地域中心（秋田駅東地区）の都市機能】

- 地域内に集積する大学や病院などの既存機能を拡充し、市民や学生が集う、にぎわいのある環境づくりを推進
- 秋田駅東口のにぎわいづくりに向けて、土地区画整理事業の計画的な整備など商業・業務施設が進出しやすい環境づくりによる都市機能の誘導
- 集約型都市構造の実現に向けて、充実した医療機能を活かし、民間活力の導入により、郊外部からの住み替えの受け皿として、高齢者向け住宅を確保
- 土地区画整理事業の円滑かつ計画的な整備の推進

【安全で快適な道路環境づくり】

- 通学路などにおける、街灯や防犯灯の設置や地域と連携したパトロールの強化など、安全安心な道路環境づくり
- 自動車利用者だけでなく、地域住民の身近な買い物の場として、関連施設が進出しやすい環境整備を進め、日常生活の利便性向上を促進

- 都市全体の商業地との役割分担を図りながら、幹線道路沿道でのサービス施設の立地を計画的に誘導
- 後背住宅地に与える影響に十分に配慮した、適切な用途・規模の施設の立地誘導

- | | |
|--------|--------|
| 複合系市街地 | 地域中心 |
| 住居系市街地 | 水と緑の拠点 |
| 沿道系市街地 | 交通結節拠点 |
| 田園共生地区 | 環状道路網 |
| 農業振興地区 | 高速アクセス |
| 自然保全地区 | |

3 西部地域

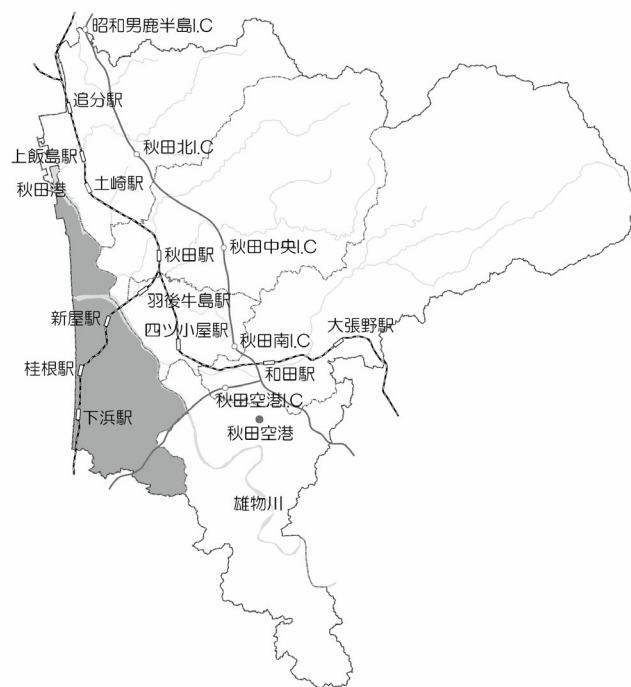
(1) 地域の概要

① 概況

西部地域は、雄物川の南側と北側で地域の性格が大きく異なっています。

南側は、新屋駅を中心とした市街地とともに、国道7号の沿道に細長い既存住宅地が形成されています。また西部工業団地、下浜工業団地、豊岩工業団地が整備されています。市街地以外の地域には丘陵地が広がり、豊かな自然環境を有した地域です。

北側には、大規模な工業団地や研究所、スポーツ施設が立地しており、その南東部に住宅地が形成されています。また、海岸沿いに松林などの自然環境が残されています。新屋地区よりも、中央地域の都心・中心市街地とのつながりが強い地域です。

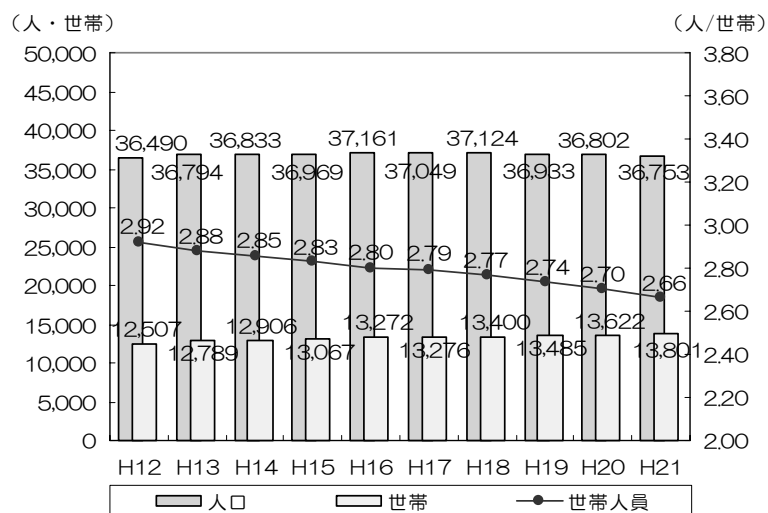


② 人口・世帯数の推移

西部地域の平成21年10月1日時点の人口は36,753人となっており、平成12年からの10年間で約0.7% (263人) 増加していますが、近年は減少傾向にあります。

世帯数も平成21年で13,801世帯と10年間で約10.3% (1,294世帯) 増加しています。1世帯当たりの人員は2.92人/世帯から2.66人/世帯に減少しており、核家族化や単身世帯の増加が見られます。

地域内の年齢別人口構成比（平成17年国勢調査より）をみると、年少人口（15歳未満）が13.5%、生産年齢人口（15～64歳）が62.6%、老年人口（65歳以上）が23.9%と、7地域の中で2番目に年少人口の割合が高い地域となっています。



※住民基本台帳（各年10月1日時点）より。H12,17は国勢調査結果

③ 土地利用の状況・課題

西部地域の面積は約 8,240ha で、地域の約 8 割（約 6,450ha）が秋田都市計画区域（線引き都市計画区域）に指定されています。

新屋駅を中心に広がる市街地と旧街道および国道 7 号沿道に連続する住宅地には用途地域（約 1,210ha）が指定されています。また、雄物川沿いの優良な田園地帯には農業地域の農用地区域（約 740ha）が指定されており、海岸沿いの樹林地や丘陵地には、森林地域の国有林（約 80ha）、地域森林計画対象民有林（約 4,460ha）、保安林（約 300ha）が指定されています。

また、良好な都市景観を保全すべき地域として、勝平山風致地区と大森山風致地区が指定されています。

【商業・業務地】

新屋駅周辺や表町において商業施設の立地が見られますが、地域の商業拠点として十分な機能集積が図られていない状況です。また、近年の小売店舗数の減少を受けて、地域内における商業機能低下が懸念されています。

今後は、市民の行政・文化拠点として新屋駅前に新たに整備された西部市民サービスセンターを活用しながら、商業施設の進出を促す環境整備を進めるとともに、本地域の都市機能を補完する中央地域の都心部へのアクセス性向上に向けた取組も求められています。

【住宅地】

雄物川南側の新屋地区では、既存の住宅地とともに、新屋西地区土地区画整理事業や民間宅地開発などによる住宅地が形成されています。浜田、桂根、下浜にも、昔からの低密度な住宅地が細長く連続して形成されています。また、下浜地区では、職住近接型の住宅地が工業団地に隣接して整備されています。それぞれの住宅地においては、引き続き周辺環境との調和を図りながら、良好な居住環境を整備していくことが求められています。

雄物川北側の勝平地区でも、比較的密度の高い住宅地が形成されており、海岸一帯に指定された勝平山風致地区と調和した、良好な居住環境の形成が求められています。

【工業地】

雄物川南側では、新屋地区の市街地内に西部工業団地が整備されています。また、下浜地区には職住近接型の下浜工業団地が、豊岩地区には臨空港型の豊岩工業団地がそれぞれ整備されています。工業団地には、まだ未利用地も残されていることから、周辺環境に配慮した良好な操業環境の維持・形成を図るとともに、企業誘致による土地の有効活用と地域産業の活性化も求められています。

雄物川北側の向浜地区にも、大規模工場や研究所を有する工業地が整備されており、良好な創業環境の維持・増進や勝平山風致地区との調和が求められています。

【農地・自然環境】

本地域は、海岸や河川、丘陵地や堤などの多様な自然資源を有した地域です。

雄物川の南側は丘陵地で形成されており、その山間や雄物川沿いの平野部に優良な田園空間が広がっています。丘陵地は大小様々な堤・池沼を有しており、昔ながらの里地里山空間が残されています。また、海岸部にも、保安林に指定された松林など豊かな緑地空間が広がっており、良好な海辺環境が保全されています。

雄物川の北側でも、海岸部の松林をはじめ、ゴルフ場や自衛隊の演習場など、多様な用途として活用されながらも、多くの自然環境が維持・保全されています。

今後も、貴重な地域資源として自然環境の適切な保全・管理が求められています。

【その他の拠点・都市機能】

雄物川南側の新屋地区の市街地には、地域住民の行政・文化拠点となる西部市民サービスセンターや秋田公立美術工芸短期大学が立地しています。また、市民の憩いの場として、大森山動物園を有する大森山公園や浜田森林総合公園などの大規模公園が整備されています。

雄物川北側には、県立武道館やこまちスタジアムなど、大規模スポーツ施設が整備されており、広域スポーツ拠点としての役割を果たしています。また、県の技術センターや研究所など、県の公共公益施設が多数立地しています。

また、海岸沿いの秋田空港跡地については、地域活力の創出に向けた土地の有効活用が求められています。

④ 交通施設の整備状況・課題

【地域間・地域内交通】

広域的に通過する交通を市街地から排除する外周部環状道路として、都市計画道路新屋豊岩線と国道 7 号秋田南バイパスなどが整備されています。

外周部環状道路に連絡し連続性のある幹線道路網を形成する放射道路としては、国道 7 号秋田南バイパス・下浜道路が位置づけられており、未整備区間については計画的な整備が望まれます。

また、本市の環状道路網を相互に連絡する道路として、国道 7 号秋田南バイパスと都市計画道路新屋土崎線が分散導入路に位置づけられています。

【公共交通】

本地域には、JR 羽越本線の新屋駅、桂根駅、下浜駅が整備されていますが、運行本数の少なさやバスとの乗り継ぎの不便さなどが課題となっています。今後は、本地域の都市機能を補完する都心部との連携強化が求められることから、都心部へのアクセス性の向上に向けた取組が求められています。

⑤ その他の状況・課題

【景観形成】

本地域では、海岸や河川、丘陵地などの豊かな自然資源によって、良好な自然景観が形成されています。また、市街地においても新屋地区の新屋表町通りの伝統的な街並みや大川端带状近隣公園の桜並木など、特徴的な景観が形成されており、今後も周辺環境と調和した魅力ある街なか景観づくりが求められています。

（２）目指すべき地域の姿

海・大森山・学べる里地里山 ハーモニーのまち

- 多様な土地利用が調和した 持続可能な市街地づくり
- 商業・行政・文化機能が充実した 利便性の高い生活拠点づくり
- 豊かな自然資源を活かした うるおいとにぎわいのあるまちづくり

本地域は、住宅地をはじめ大規模な工業団地や公共公益施設などの多様な施設が立地する市街地が形成されており、市街地周辺には良好な自然環境が保全されています。これからも、周辺環境との調和に配慮した既存ストックの管理・活用を図るとともに、未利用地の積極的な利活用による地域活力の創出など、将来にわたって持続可能な市街地の形成を目指します。

本地域の地域中心となる雄物川南側の新屋地区については、地域住民の生活利便性の向上を目指し、既存の行政・文化機能の維持・充実を図るとともに、特に商業機能の強化に向けた環境づくりに取り組みます。

また、交流人口の拡大による地域の活力向上とにぎわいの創出に向けて、本地域が有する海岸や河川、丘陵地などの豊かな自然資源の保全活動を促進し、大森山公園などの既存観光拠点の積極的な利活用を図ります。

（３）まちづくりの方針

① 土地利用の方針

【地域中心における都市機能の充実】

- 交通拠点や行政・文化拠点を有し、商業施設等の誘導を図る商業地域に指定されている雄物川南側の新屋地区（新屋駅周辺および新屋表町）を、西部地域の地域中心として位置づけます。

- 商業・行政・文化機能を有する新屋地区については、地域住民の生活拠点として、既存機能の維持・充実を図ります。特に、地域中心として十分な集積が図られていない商業および医療・福祉機能については、既存商店街など多様な主体の連携を図りながら、関連施設が進出・集積しやすい環境づくりを促進し、地域全体のにぎわいの創出に取り組みます。
- 商業や医療・福祉機能については、地域内での機能集積を目指しますが、それと同時に、近接する中央地域との連携強化による不足機能の補完に向けて、都心部への交通アクセスの利便性向上に向けた取組を促進します。
- 西部市民サービスセンターを拠点に、地域における市民協働・都市内地域分権を推進するとともに、地域内の交流強化、市民や来訪者への地域情報の発信拠点としての活用等を進めます。
- 産学官の連携による街なか景観の創出や都市と農村の交流にも寄与する朝市の実施など、地域中心のにぎわいづくりに向けたソフト面の充実を促進します。
- 駅周辺に集積する公共公益施設の案内サインの整備などによる、利便性向上を図ります。

【快適な居住環境の形成】

- 既存住宅地については、周辺の丘陵地や農地、海岸林などの自然環境に配慮しながら、緑に囲まれた良好な居住環境の維持・形成を促進します。
- 海岸部の住宅地については、飛砂被害の防止に向けた環境整備を促進します。
- 勝平山風致地区内の住宅地については、良好な自然景観と調和した、ゆとりのある居住環境の形成を促進します。
- 道路などの生活基盤整備が不足している既存住宅地においては、地区計画などの手法を活用しながら、狭隘道路の解消など、良好な居住環境の形成に向けた取組を促進します。下浜地区においては、排水処理対策の充実に取り組みます。

【工業地の環境整備】

- 本地域に整備された工業団地については、周辺の水辺、緑地などの自然環境や近隣の居住環境との調和を図りながら、良好な操業環境の維持・増進に向けた環境整備を促進します。
- 西部工業団地については、引き続き操業環境の維持・増進を図るとともに、団地全体の活性化に資する環境づくりを促進します。豊岩工業団地においても、近接する高速道路との連携強化を図りながら、そのポテンシャルを活かした企業誘致を促進します。

【自然環境の保全・管理】

- 本地域が有する貴重な自然資源については、市民や行政、企業など多様な主体の連携・協働による、豊かな水辺・森林環境の保全・管理を図ります。
- 丘陵地の里地里山環境については、市民による積極的な利用に基づく管理を目指し、市民活動の場として利用できるように、関係機関との調整を図ります。
- 大森山公園や浜田森林総合公園などの大規模公園については、交流人口の拡大に資する観光・レクリエーション拠点として、既存機能の充実を図ります。
- 風況の良い海岸部・山間部における風力発電など、地域特性を活かした自然エネルギーの利用を促進します。
- 地域住民の自発的な環境保全活動を促すため、市民と行政の連携を図りながら、地域内での清掃活動の実施や日頃の意識啓発を促進します。

【田園環境の保全・管理】

- 丘陵地の山間や雄物川沿いの平野部に広がる田園地帯については、無秩序な開発の抑制と優良農地の確保により、良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修により農業生産環境の向上を促進し、優良農地の保全を目指します。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足などを背景として、増加が見込まれる耕作放棄地については、農地情報の適切な管理と農地利用を推進し、耕作放棄地の発生抑制を目指します。
- 田園地帯に点在する既存集落においては、生活道路や下水道施設などの維持・改修を図りながら、生活環境の向上を促進するとともに、コミュニティの維持・活性化に資する都市計画制度等の導入を検討します。

② 交通体系の整備方針

【幹線道路の整備促進】

- 国道 7 号と都市計画道路新屋土崎線については、広域交通需要への対応や地域中心の新屋地区と中央地域の都心部をつなぐ重要路線として、アクセス性の向上に向けた取組を促進します。
- 地域内を連絡する国道 7 号秋田南バイパス・下浜道路、県道寺内新屋雄和線、川添下浜停車場線については、地域住民の交通利便性の向上に向けて、関係機関との調整を図りながら、アクセス性の維持・充実を促進します。

【持続可能な公共交通の確保】

- 地域中心となる新屋駅を中心として、マイタウン・バスの活用など、地域内移動の円滑化に向けたバス路線の再編・充実を促進します。

- 本地域の都市機能を補完する中央地域の都心部への交通アクセスの利便性向上に向けて、新屋地区と都心部を結ぶ鉄道およびバス路線の拡充を促進します。
- 鉄道の利用促進に向けて、子どもから高齢者まで、誰もが利用しやすい駅前環境の整備とバリアフリー化を促進します。また、関係機関と協力しながら、鉄道の運行本数の拡充に向けた鉄道会社への働きかけを促進します。

【安全で快適な道路環境づくり】

- 住宅の密集した地域や狭隘道路が残されている地域については、地区計画などの手法を活用しながら、緊急車両が円滑に通過できる道路幅員や通学路等における歩行空間の確保など、安全な道路環境の整備を図ります。
- 下浜地区においては、渋滞の緩和・解消に向けて、既存市街地の生活環境に配慮した下浜道路の整備を促進します。

③ その他の方針

【観光拠点の利活用による地域活力の創出】

- 大森山動物園や海水浴場等の既存観光拠点の充実を図るとともに、新屋駅から各施設へのアクセス性の向上を図り、市全体の広域レクリエーション拠点の形成を目指します。
- 交流人口の拡大による地域活力の創出に向けて、本地域の歴史・文化、景観などを紹介するパンフレットやマップづくり、ボランティアガイドの育成やホームページの開設など、市民や行政など多様な主体の協働による地域資源に関する積極的な情報発信に取り組みます。

【地域資源を活かした魅力ある景観づくり】

- 丘陵地や堤などの美しい里地里山景観、連続する砂浜と松林、海辺らしさを感じさせる伸びやかな居住地が一体となった良好な海岸景観など、本地域が有する豊かな自然資源を活かした景観の維持・保全を図ります。
- 新屋表町通りの伝統的な街並み、大川端带状近隣公園の桜並木、雄物川の水辺空間など、多様な地域資源を活かした魅力ある街なか景観づくりを促進します。
- 幹線道路沿道については、沿道住民や事業者との連携を図りながら、建築物や屋外広告物の形態規制など、景観計画に基づいた良好な沿道景観づくりを促進します。

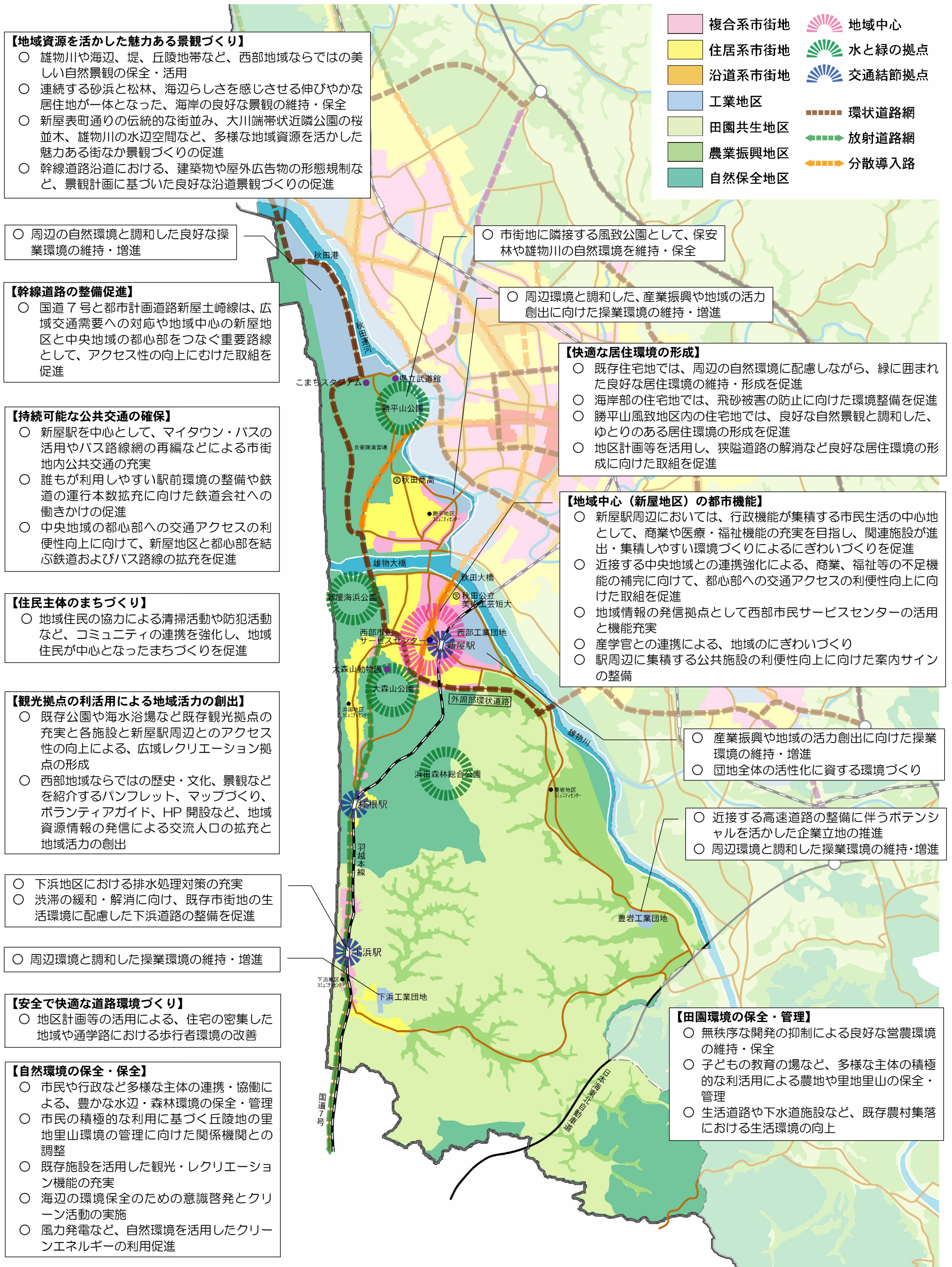
【住民主体のまちづくり】

- 地域コミュニティの連携強化を図り、地域住民の協力による清掃活動や防犯活動など、地域住民が中心となったまちづくりを促進します。

【安全安心なまちづくり】

- 台風や大雨などによる浸水被害の防止に向けて、河川改修などを促進します。
- 海岸部や河川については、適正な排水処理による水質の保全を図り、美しい水環境の確保を図ります。
- 地震等の災害に強いまちづくりに向けて、地域内の老朽化建築物の建て替えと耐震化の促進を図ります。また、狭隘道路が残る地区については、地区計画等の導入により、緊急車両が円滑に通行できる道路を地区施設として確保するなど、安全性の高い環境整備を促進します。

■ 西部地域構想図



4 南部地域

(1) 地域の概要

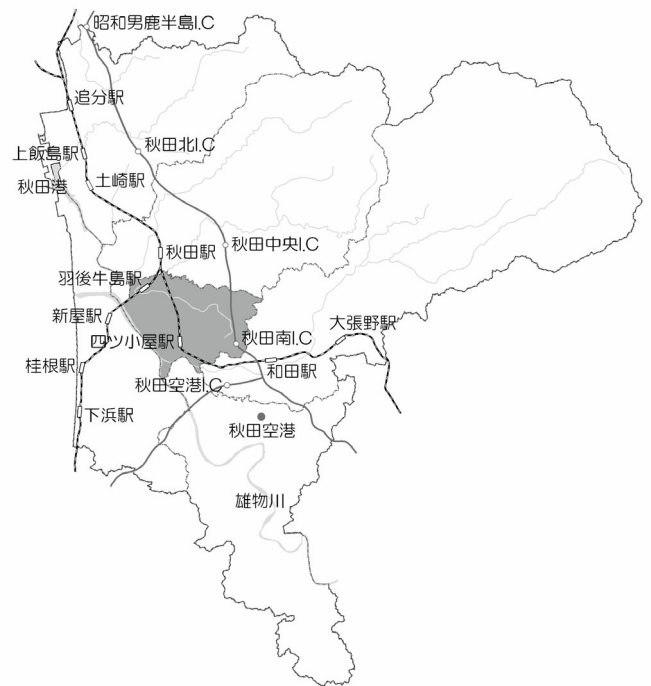
① 概況

南部地域は、豊かな水田と丘陵地で構成された田園空間の中に、中央地域の中心市街地から住宅地が徐々に拡大しながら形成されてきた市街地が広がっています。

また、四ツ小屋駅周辺には本地域の地域中心となる秋田新都市地区(御所野ニュータウン)が整備されています。

秋田新都市地区は、職住近接型のニュータウンとして開発された大規模団地で、住宅地のほか商業・流通・工業機能も有しており、本市の新たな都市拠点としての役割を担っています。

郊外部には、秋田赤十字病院が立地しており、市の医療を支える拠点となっています。

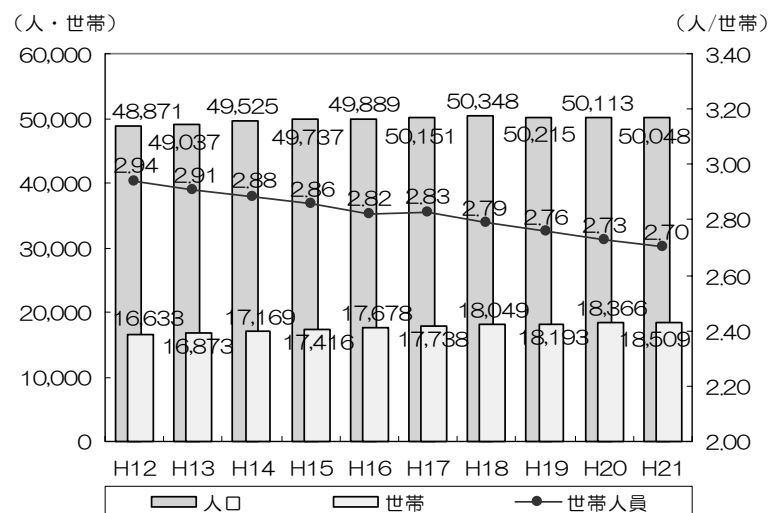


② 人口・世帯数の推移

全国的な人口減少の中、南部地域においては、秋田新都市地区の影響によって、平成21年10月1日時点の人口が50,048人と、平成12年から10年間で約2.4% (1,177人) 増加しています。

また、世帯数についても、平成21年で18,509世帯と10年間で約11.2% (1,876世帯) 増加しており、1世帯当たりの人員は2.94人/世帯から2.70人/世帯に減少しています。

地域内の年齢別人口構成比(平成17年国勢調査より)をみると、年少人口(15歳未満)が15.0%、生産年齢人口(15~64歳)が65.2%、老年人口(65歳以上)が19.7%と、7地域の中で最も年少人口割合が高く、老年人口割合が低い地域となっています。



※住民基本台帳(各年10月1日時点)より。H12,17は国勢調査結果

③ 土地利用の状況・課題

南部地域の面積は約 4,170ha で、全域が秋田都市計画区域（線引き都市計画区域）に指定されています。地域の北西部に広がる市街地と秋田新都市には用途地域（約 1,210ha）が指定されており、田園・丘陵地帯には、農業地域の農用地区域（約 970ha）や森林地域の地域森林計画対象民有林（約 1,130ha）が指定されています。

また、良好な都市景観を保全すべき地域として、金照寺山風致地区が指定されています。

【商業・業務地】

地域内の既存市街地内を通過する国道 13 号の沿道にも商業施設が立地しており、近隣住民の身近な買い物の場となっています。

また、秋田新都市地区では、レクリエーション施設を併設する大規模な商業施設やスーパーが整備されており、市内のみならず他都市からも多くの利用客が訪れています。今後も県有数の商業拠点として、その機能の維持・充実が求められています。

【住宅地】

大規模な団地開発によって整備された秋田新都市地区は、職住近接型のニュータウンとして、都市基盤が整備された良好な住宅地が形成されています。近年でも新たな人口の流入が見られており、今後も定住人口の確保に向けた、質の高い居住環境の維持が求められています。

牛島・仁井田地区などの既成市街地では、大小様々な住宅団地が整備されており、御野場地区にも、大規模開発によって御野場団地が整備され、比較的密度の高い住宅地が広がっています。

また、上北手地区の周辺でも大規模な住宅団地が整備されています。

【工業地】

秋田新都市地区では、住宅地周辺に居住者の就業の場となる流通団地と工業団地が整備されています。ただし、未利用地も多く残されていることから、高速道路に近接する立地特性を活かした企業誘致が求められています。

また、卸町には、地域の雇用と産業を支える卸団地が整備されており、流通業務施設が立地しています。

【農地・自然環境】

主に地域の西側に広がる平野部には、まとまった優良農地が確保されており、良好な田園空間が形成されています。

東側に広がる丘陵地帯は、谷筋の農地と集落によって、昔ながらの良好な里地里山環境が保全されています。一部では急傾斜地崩壊危険箇所など防災関連の指定がなされており、安全・安心な地域づくりに配慮した環境の保全・管理が求められています。

また、地域の西側には広大な河川緑地を有する雄物川が流れており、南北にも地域の境界となる岩見川と太平川、地域の中央付近には猿田川が流れるなど、多くの河川を有しています。

【その他の拠点・都市機能】

秋田新都市地区には、秋田テルサやゴルフ場などの文化・スポーツ機能を有する施設や福祉機能を有する施設が整備されています。

上北手地区では秋田赤十字病院が整備されており、併設された日本赤十字秋田看護大学とともに、市全体の医療拠点としての役割を担っています。

また、地域住民の憩いの場となる水と緑の拠点として、一つ森公園や御所野総合公園が整備されており、雄物川の河川緑地もスポーツ拠点として活用されています。

仁井田地区に残されている農業試験場跡地については、地域活力の創出に向けた土地の有効活用が求められています。

④ 交通施設の整備状況・課題

【広域交通】

広域交通を担う道路として、地域内を秋田外環状道路(高速道路)が通過しており、秋田新都市地区に近接して秋田南インターチェンジが整備されています。また、河辺地域に整備されている日本海東北自動車道の秋田空港インターチェンジと秋田新都市地区を結ぶ道路として、県道秋田御所野雄和線の整備が進められており、秋田新都市地区の工業団地・流通業務団地と高速道路との連携強化が図られています。

【地域間・地域内交通】

広域的に通過する交通を市街地から排除するための外周部環状道路として、秋田外環状道路(高速道路)、国道 13 号、県道秋田御所野雄和線が整備されています。また、都心部の通過交通を排除するための市街地環状道路として、国道 13 号と都市計画道路横山金足線が整備されています。

河辺地域と外周部環状道路を結ぶ放射道路および環状道路網を相互に連絡する分散導入路として、国道 13 号と県道秋田御所野雄和線が位置づけられています。各路線の未整備区間については、関係機関との調整による計画的な整備が求められています。

また、雄物川や岩見川の堤防には、雄和仁別自転車道や秋田河辺雄和自転車道の広域自転車道路ネットワークが形成されており、その適切な管理と有効活用が求められています。

【公共交通】

本地域には、JR 奥羽本線の四ツ小屋駅と JR 羽越本線の羽後牛島駅が整備されています。また、幹線道路を中心として、バス路線も複数整備されており、他の地域と比べ公共交通の利便性が高い地域となっています。

しかし、秋田新都市地区から鉄道駅までのアクセス性や、鉄道とバス路線との連絡性が課題となっており、公共交通の連携強化による交通利便性向上が求められています。

⑤ その他の状況・課題

【景観形成】

本地域は、平野部に広がる田園景観や丘陵地の里地里山景観、雄物川や猿田川などの河川景観など、多様な自然資源を活かした良好な景観が形成されています。

また、市街地内にも街なかの緑地環境を象徴する金照寺山風致地区が指定されており、地域の豊かな自然景観の保全・管理が求められています。

(2) 目指すべき地域の姿

豊かな緑と美しい街並みが調和した 田園都市

- 多様な都市機能が集積した 生活利便性の高いにぎわいのあるまちづくり
- 良好な田園空間と調和した 質の高い住宅地づくり
- 幹線道路や公共交通が整備された 交通利便性の高いまちづくり

本地域は、秋田新都市地区を中心として、商業・産業・医療・交通などの多様な都市機能が集積する生活利便性の高い地域です。今後も未利用地への企業誘致など、都市機能の更なる充実を促進し、地域内外から多くの人が集まる活力あるまちづくりを目指します。

また、田園・丘陵地域や雄物川の水辺空間など、本地域が有する豊かな自然環境については、引き続き適切な保全活動を促進します。市街地においても、周辺の田園環境との調和に配慮しながら、ゆとりある居住環境の形成を図ります。

秋田新都市地区については、本地域だけでなく、周辺地域の都市機能を補完する拠点となることから、鉄道やバス路線など、既存の公共交通機関の連携強化や幹線道路の整備を促進し、都心部や周辺地域への高いアクセス性を有する、交通利便性の高いまちづくりを目指します。

(3) まちづくりの方針

① 土地利用の方針

【地域中心における都市機能の充実】

- 商業施設や住宅地、工業地など職住近接型の市街地が計画的に整備され、教育機関や福祉施設などの多様な都市機能が計画的に集積されている秋田新都市地区を、南部地域の地域中心として位置づけます。
- 県内でも有数の商業拠点として、周辺地域の商業機能を補完する役割も担っており、引き続き既存機能の維持・充実を促進します。
- 多くの住民が生活する住宅団地として、地域の交流や学習の場となる行政・文教機能の充実を目指し、多様な主体の連携を図りながら、関連施設が進出・集積しやすい環境づくりを促進します。
- 持続可能な地域づくりに向けて、周辺の工業団地等への企業誘致による地域住民の就業の場の確保を促進し、地域中心内での定住人口の確保・集積を図ります。また、将来的な地域の高齢化を見据え、高齢者ニーズに対応した福祉機能の充実を促進します。
- うるおいある都市環境づくりに向けて、地域住民の協力による敷地内緑化の促進や沿道の緑化活動などにより、計画的な緑の保全・創出を促進します。

【快適な居住環境の形成】

- 秋田新都市地区や御野場団地など、大規模開発によって整備された住宅団地については、道路や上下水道、公園などの都市基盤が整った住宅地が形成されていることから、今後も良好な居住環境の維持・更新を図りながら、他都市などからの流入による定住人口の拡大を促進します。
- 小規模開発や個別開発によって形成されてきた既存住宅地については、地区計画や建築協定などの制度を活用しながら、生活道路の改良・改修や敷地内緑化などを促進し、居住環境の向上に努めます。
- 地域北側の丘陵地周辺に開発されている住宅団地など、既に地区計画の指定がされている住宅地については、地区計画に基づいて、豊かなみどりやゆとりある空間を活かした良好な居住環境の形成を誘導するとともに、未分譲地での住宅建設を促進し、定住人口の拡大を目指します。

【地域の活力向上に向けた環境整備】

- 秋田新都市地区に整備された工業団地や流通業務団地については、地域産業の振興や地域住民の雇用の場として、秋田空港や高速道路等の広域交通網に近接する立地特性を活かしながら、積極的な企業誘致の促進による未利用地の解消を図ります。

- 秋田新都市地区内の北側に位置づけられている複合系市街地においては、地区計画に基づいて商業・業務ゾーン、福祉・研究・住居ゾーン、産業・物流ゾーンの3つのゾーンの形成に努め、良好な市街地の誘導を促進します。
- 羽後牛島駅周辺においては、周辺住民の生活に密着した身近な商業地づくりを目指し、関連施設の進出に向けた環境整備を促進するとともに、統一感のある街並みづくりやイベントの実施など、既存商店街の魅力づくりに努めます。
- 農業試験場跡地については、地域の魅力創出のための利活用に向けて、土地所有者である県への働きかけなど、必要な取組を進めます。

【自然環境の保全・管理】

- 本地域の東側に広がる丘陵地帯については、本市ならではの里地里山空間を形成する貴重な資源として、市民や企業、行政など多様な主体の連携・協働によって、自然環境の保全・管理を図ります。
- 一つ森公園については、市街地に隣接する自然・歴史に触れ合える大規模公園として、適切な維持・管理を図るとともに、イベントの開催や機能の充実による魅力向上に努めます。
- 良好な自然環境を有している金照寺山風致地区の環境保全を図ります。
- 地域内に流れる雄物川や猿田川などの河川については、市民や行政などの多様な主体の協働に基づく積極的な美化活動等により、市民生活にうるおいを与える水辺環境の保全と魅力ある河川環境の創出を促進します。

【田園環境の保全・管理】

- 西側の平野部や丘陵地の谷筋に広がる田園地帯については、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修により農業生産環境の向上を促進し、優良農地の保全を目指します。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足などを背景として、増加が見込まれる耕作放棄地については、農地情報の適切な管理と農地利用を推進し、耕作放棄地の発生抑制を目指します。
- 田園地帯に点在する農村集落については、生活道路や下水道施設などの維持・改修を図りながら、生活環境の向上を促進するとともに、コミュニティの維持・活性化に資する都市計画制度等の導入を検討します。

② 交通体系の整備方針

【幹線道路の整備促進】

- 地域中心と高速道路のインターチェンジを結ぶ国道 13 号や県道秋田御所野雄和線の管理・更新を図り、高速道路と地域内産業団地とのアクセス性の維持・強化を促進します。
- 地域内を通る外周部環状道路や市街地環状道路などの環状道路を構成する国道 13 号や都市計画道路横山金足線などの広域幹線道路については、関係機関との調整を図りながら、その機能の維持・向上に向けた計画的な維持・更新を促進します。
- 外周部環状道路に連絡する放射道路や環状道路網を相互に連絡する分散導入路については、その機能の維持・向上に向けた適切な維持・管理を促進します。

【持続可能な公共交通の確保】

- 地域中心の交通結節拠点となる四ツ小屋駅については、利用者の拡大に向けて、住宅地と駅を結ぶバス路線の充実やライドアンドライドなどを促進しながら、地域中心からのアクセス性向上を目指します。
- 牛島地区の既成市街地の交通結節拠点となる羽後牛島駅については、都心部への良好なアクセス性の維持を図るとともに、バス路線との連携強化を促進し、公共交通機関の利用者の拡大を目指します。
- 鉄道駅から秋田赤十字病院などの都市拠点へのアクセス性の確保を目指し、バス路線の再編などによる公共交通網の充実を促進します。

【安全で快適な道路環境づくり】

- 牛島地区の既存住宅地など、狭隘道路が残されている地域については、住民の協力を得ながら地区計画等のまちづくりのルールを導入し、道路改良や交通安全施設の充実などを進めながら、安全で快適な道路環境の整備を促進します。

③ その他の方針

【地域資源を活かしたまちづくり】

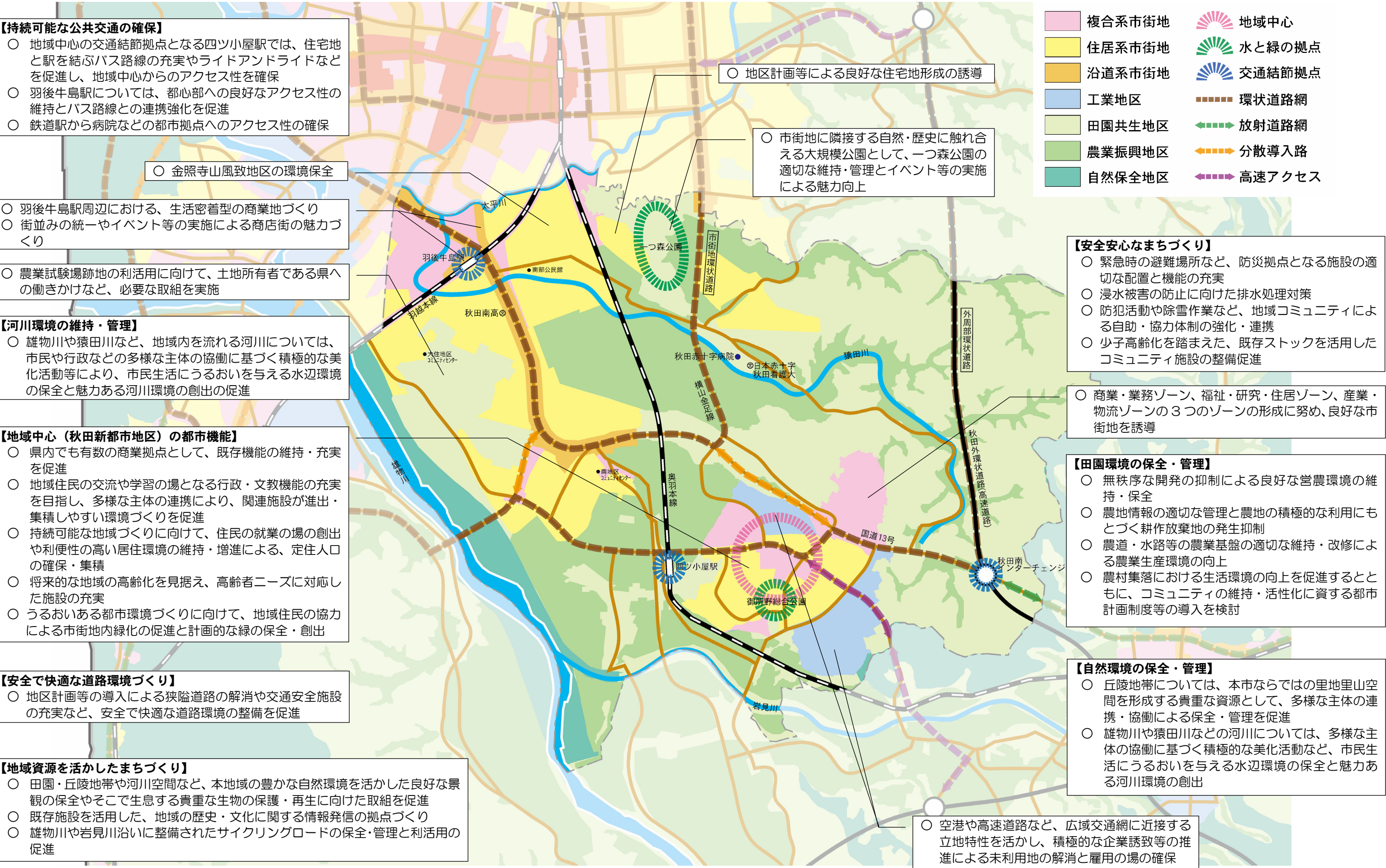
- 田園・丘陵地帯や河川空間など、本地域の豊かな自然環境を活かした良好な景観の保全を図るとともに、そこで生息する貴重な生物の保護・再生に向けた取組を促進します。
- 公共公益施設などの既存ストックを活用しながら、地域の歴史・文化に関する情報発信を担う拠点の整備や、地域特有の自然や歴史・文化の保全に取り組む人材の育成を促進します。

- 雄物川や岩見川沿いに整備されたサイクリングロードについては、関係機関との調整を図りながら、適切な保全・管理および良好な河川景観の創出を促進し、利用者の拡大による有効活用を目指します。

【安全安心なまちづくり】

- 公共施設などの既存ストックを活用しながら、緊急時の避難場所など、防災拠点となる施設の適切な配置と機能の充実を図り、安全安心なまちづくりを目指します。
- 複数の河川を有する本地域においては、台風や大雨などによる平野部での浸水被害の防止や水質の保全に向けて、適切かつ計画的な排水処理対策を促進します。
- 高齢化への対応や地域の一体感の醸成に向けて、行政との連携を図りながら、防犯・防災活動や冬期の除雪作業など、地域住民が主体となったまちづくり活動の展開を目指します。
- 地域の高齢者と子ども達が日常的に交流できる場の創出など、既存ストックの活用を図りながら、少子高齢化を踏まえた地域コミュニティ施設の整備を促進します。

■ 南部地域構想図



5 北部地域

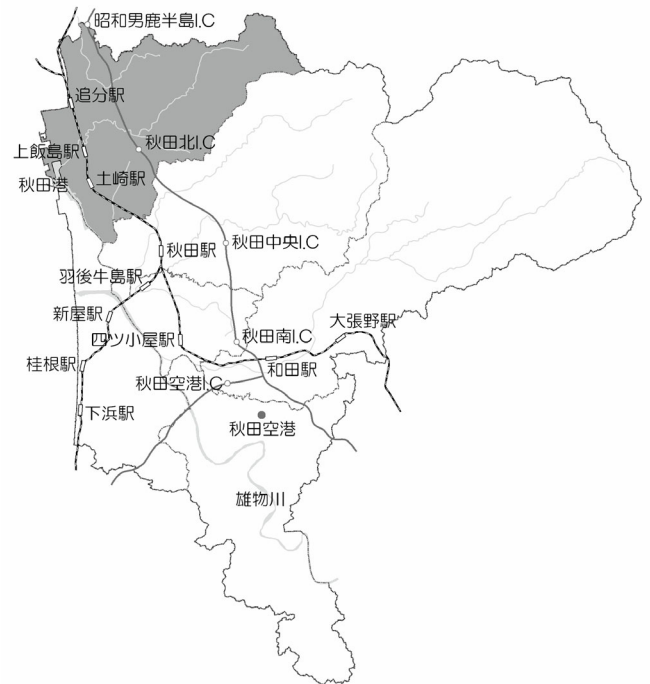
(1) 地域の概要

① 概況

北部地域は、西側に秋田港や鉄道駅を中心とした市街地が形成されており、東側には田園や丘陵地などの豊かな自然環境が広がっています。

本地域の地域中心である土崎地区は、古くから港町として栄え、街道沿いに市街地が形成されてきました。本町通り・中央通りには商業地が形成され、国道7号沿道にも沿道型サービス施設の立地が見られます。

また、秋田港を中心として工業団地が整備されているほか、史跡秋田城跡や県立小泉潟公園、大滝山自然公園などの歴史・文化資源や郊外に広がる自然環境など、多様な特性を有しています。

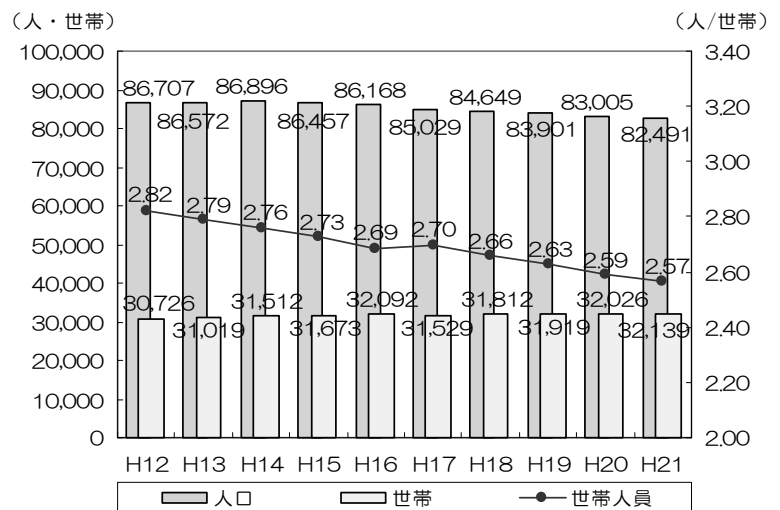


② 人口・世帯数の推移

北部地域の平成21年10月1日時点の人口は82,491人となっており、平成12年からの10年間で約4.9% (4,216人) 減少しています。

一方、人口減少が進む中で世帯数は平成21年で32,139世帯と10年間で約4.6% (1,413世帯) 増加しており、1世帯当たりの人員も2.82人/世帯から2.57人/世帯に減少するなど、核家族化や単身世帯の増加が進んでいます。

地域内の年齢別人口構成比(平成17年国勢調査より)をみると、年少人口(15歳未満)が12.3%、生産年齢人口(15~64歳)が63.3%、老年人口(65歳以上)が24.4%と、7地域の中で3番目、旧秋田市内では最も老年人口の割合が高い地域となっています。



※住民基本台帳(各年10月1日時点)より。H12,17は国勢調査結果

③ 土地利用の状況・課題

北部地域の面積は約 13,860ha で、そのうちの 7 割（約 10,050ha）が秋田都市計画区域（線引き都市計画区域）に指定されています。

地域の西側に広がる市街地には用途地域（約 2,430ha）が指定されており、東側の田園・丘陵地帯には、農業地域の農用地区域（約 2,340ha）や森林地域の国有林（約 2,420ha）、地域森林計画対象民有林（約 4,860ha）が指定されています。

また、良好な都市景観を保全すべき地域として、金足風致地区、浜ナシ山風致地区、清水風致地区、焼山風致地区が指定されており、海岸部には保安林（約 750ha）が指定されています。

【商業・業務地】

土崎地区の本町通り・中央通りの既存商店街や沿道型サービス施設が立地する国道 7 号、都市計画道路新屋土崎線(新国道)の沿道地域は、本地域における商業・業務拠点としての役割を担っています。

しかし、近年では住民の身近な買い物の場となる既存商店街の疲弊が顕在化しており、空き店舗の発生など新たな課題も見られています。

また、周辺住民の交通拠点となる追分駅周辺においても、自動車に頼らない身近な商業機能の整備が求められています。

【住宅地】

本地域の地域中心となる土崎地区周辺では、比較的密度の高い住宅地が形成されていますが、それ以外の地区では低密度の住宅地が広がっています。

また、郊外に点在する既存集落においては、高齢化や人口の流出による地域の活力低下が大きな課題となっています。

人口減少の影響により、各地区で空き家や空室の発生が課題となっており、今後もその傾向が続くと予測されることから、これらの既存ストックを活用した、安定した住環境の形成が求められています。

【工業地】

秋田港に面する土崎・飯島地区の臨海部には、本市の産業と雇用を支える工業団地が整備されています。

今後も、シーアンドレール構想をはじめとする将来的なプロジェクトの実現を見据えながら、産業全体の活性化に向けた環境整備が求められています。

【農地・自然環境】

市街地を囲むように広がる平野部には、まとまった優良農地が確保されており、良好な田園空間が形成されています。今後も貴重な農業生産の場として、適切な保全・管理が望まれます。

また、新城川については、現在河川改修が進められており、今後も計画的な整備促進が求められています。

東側に広がる丘陵地帯は、地域内を流れる河川の源流域となっており、多くの堤を有するなど、豊かな水資源に恵まれています。ただし、一部地域では急傾斜地崩壊危険箇所など防災関連の指定がなされており、今後も安全・安心な地域づくりに向けた対策が求められています。

【その他の拠点・都市機能】

本地域の地域中心となる土崎地区には、北部市民サービスセンター、土崎図書館などの公共公益機能が集積しています。また、飯島地区には地域の総合病院となる組合総合病院が整備されており、各地区とも地域の行政・医療拠点としての役割を担っています。

観光拠点としては、秋田港には道の駅としての機能も持つポートタワーセリオンが、また豊かな自然環境を活かして県立小泉潟公園や大滝山自然公園、高清水公園など多くの大規模公園が整備されており、交流人口の拡大と地域の活性化に向けた活用が求められています。

また、下新城地区には秋田県立大学が立地しており、大学と地域の連携による活力創出が期待されます。

④ 交通施設の整備状況・課題

【広域交通】

広域交通を担う道路として、地域内を秋田外環状道路(高速道路)が通過しており、上新城地区に秋田北インターチェンジが、潟上市との境界付近に昭和男鹿半島インターチェンジが整備されています。

また、市街地から秋田北インターチェンジに連結する都市計画道路外旭川上新城線が供用されており、高速道路へのアクセス性の向上が図られています。

【地域間・地域内交通】

広域的に通過する交通を市街地から排除するための外周部環状道路のうち、秋田港から国道7号までの道路が整備されています。また、都心の通過交通を排除するための市街地環状道路として、中央地域を中心とする本市の市街地周辺に都市計画道路横山金足線などが整備されています。各路線の未整備区間については計画的な整備が望まれます。

外周部環状道路に連絡し連続性のある幹線道路網を形成する放射道路としては、国道7号や都市計画道路横山金足線、県道秋田天王線が整備されています。また、本市の環状道路網を相互に連絡する分散導入路としても、国道7号、都市計画道路新屋土崎線、横山金足線などが位置づけられています。

【公共交通】

本地域には、JR 奥羽本線の土崎駅、上飯島駅、追分駅が整備されています。また、幹線道路を中心として、バス路線も複数整備されるなど、他の地域と比べ公共交通の利便性が高い地域となっています。

しかし、鉄道駅とバス交通の連絡性やバス路線網から外れた地域での公共交通手段の欠如など、多くの課題も有していることから、公共交通の更なる利便性向上に向けた対応が求められています。

【海上交通】

秋田港においてフェリー一定期便が開設されており、北海道や日本海沿岸都市との結びつきが強化されています。

今後は、港を活かした産業の活性化に向けて、貨物船の大型化に対応した航路泊地の維持・管理や船舶の安定運航の確保に向けた港内環境の整備、港湾周辺の交通渋滞緩和や高速道路へのアクセス性向上に向けた道路整備などが求められています。

⑤ その他の状況・課題

【景観形成】

本地域は、秋田港と工業地が調和した港湾景観や海岸部の保安林による海岸景観、市街地の東側に広がる田園や丘陵地、河川によって形成される水と緑の景観など、多様な資源を活かした良好な景観が広がっています。

また、土崎駅周辺では、電線類の地中化による港町としての趣きを活かした街なか景観づくりが進められており、今後も豊かな自然環境の保全・管理による自然景観の維持を図るとともに、地域の伝統・文化を活かした独自の景観づくりが期待されます。

【その他の都市施設】

本地域には、市民サービスセンター、各地区のコミュニティセンターなどの公共公益施設が整備されています。これらの公共公益施設については、敷地内緑化の推進やクリーンエネルギーの導入・活用など、地球温暖化抑制に向けた取組や安全安心な地域づくりに向けた施設の耐震化や防災機能の付加・充実などが求められています。

また、一部の地区では雨天時における浸水被害が発生していることから、被害防止に向けた排水処理対策が求められています。

(2) 目指すべき地域の姿

港町を中心とした 世界につながる歴史とロマンのまち

- 産業振興と地域の活力向上に向けた 秋田港を活かしたまちづくり
- 多様な地域資源を活用した 地域独自の魅力あふれるまちづくり
- 公共交通網を活かした 生活利便性の高いまちづくり

本地域は、北東北の海の玄関口となる秋田港や本市の産業を支える工業地帯を有した地域です。今後も良好な操業環境を維持しながら、港町としての特性を活かしたまちづくりを進め、産業の活性化と地域活力の創出に向けた港湾環境の一体的な整備を目指します。

また、秋田港のみならず、海岸部の松林や市街地の東側に広がる田園・丘陵地などの自然的資源、史跡や公園、大学をはじめとする歴史・文化資源など、本地域が有する多様な地域資源の保全・活用・連携を図りながら、魅力ある交流型のまちづくりを推進し、地域の活性化を目指します。

本地域の恵まれた公共交通環境を活かし、鉄道やバス交通の連携強化による交通利便性の更なる向上を図るとともに、公共交通軸沿線における生活利便性の高い沿道型居住地の形成を目指します。

(3) まちづくりの方針

① 土地利用の方針

【地域中心における都市機能の充実】

- 交通結節機能を有する土崎駅を中心として、地域住民の生活を支える商業機能や行政・文化機能が集積している土崎地区を、北部地域の地域中心として位置づけます。
- 土崎地区においては、地域中心として人が集うにぎわいのあるまちを目指します。地域住民の快適な生活を支える商業、行政、工業などの既存機能の維持と更なる充実に向けて、多様な主体の連携を図りながら関連施設が進出・集積しやすい環境づくりを促進します。
- 土崎駅周辺においては、自動車移動に頼らない身近な買い物の場を確保するため、特別用途地区をはじめとする都市計画制度等の導入による、沿道型サービス施設の適切な立地誘導について検討するとともに、街なかの商店街と幹線道路沿道に立地するサービス施設との役割分担を明確にし、両者が共存した地域商業の活性化を促進します。

- 北部市民サービスセンターを拠点に、地域における市民協働・都市内地域分権を推進するとともに、地域内の交流強化、市民や来訪者への地域情報の発信拠点としての活用等を進めます。
- 地域北側の拠点となる追分駅周辺においても、近隣に県立小泉潟公園と県立大学が立地するポテンシャルを活かし、学生や来訪者が集うような商業系施設など、にぎわいの創出に資する施設が進出しやすい環境づくりを促進します。

【沿道型居住市街地の形成】

- 路線バスや鉄道により都心部や地域中心への移動が容易で、なおかつ周辺住民が利用できる日常的な買い物環境や医療・福祉機能が一定程度整備されている幹線道路沿道地域については、ロードサイド型の商業拠点としてだけでなく、既存施設を活かした生活利便性の高い居住地としての土地利用を促進し、公共交通軸を中心とした集約型の沿道型居住市街地の形成を目指します。
- 沿道型居住市街地の形成に向けて、幹線道路沿道に立地している施設の用途や集積状況を踏まえながら、ふさわしいエリアの見極めを進めるとともに、特別用途地区をはじめとする都市計画制度等の導入など、沿道周辺の居住環境への影響に配慮した土地利用誘導方策について検討します。

【産業振興と地域の活性化に向けた秋田港の活用】

- 本市の産業を支える臨海部の工業地帯については、引き続き良好な操業環境の維持を図るとともに、シーアンドレール構想の促進による産業機能の増進と産業の活性化に向けて、秋田港の環境整備に取り組みます。
- コンテナ貨物やフェリー貨物の安全で安定した輸送の確保と地域の産業振興に資する物流の効率化に向けて、船舶の安定運航の確保に必要な施設整備を促進します。
- 秋田港については、海の玄関口にふさわしい魅力ある港づくりを目指し、松林など周囲の良好な自然資源との調和を図るとともに、セリオンをはじめとする既存拠点を活用しながら、海辺に親しめるにぎわいのある港湾環境の整備を促進します。

【空き家・空き地の有効活用】

- 高齢化や人口減少などの影響によって、市街地内で増加しつつある空き家や空き地については、所有者の協力を得ながら、農産物の直売所や地域コミュニティの交流の場、駐車場、除雪スペース等として有効活用するための手法について検討します。

【自然環境の保全・管理】

- 本地域の東側に広がる丘陵地帯については、都市生活にうるおいを与える貴重な資源として、市民や企業、行政など多様な主体の連携・協働によって、森林環境の保全・管理を図ります。

- 県立小泉潟公園をはじめとする大規模公園などの観光拠点については、周辺環境との調和に配慮しながら、その機能の維持・充実を図ります。また、各拠点を有機的に結びつけることにより、交流人口の確保を目指します。
- 地域内に流れる草生津川や新城川においては、多様な主体の協働に基づく積極的な美化活動などによる水質の保全や河川環境の保全活動を促進します。

【田園環境の保全・管理】

- 市街地の縁辺部に広がる田園地帯については、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修により農業生産環境の向上を促進し、優良農地の保全を目指します。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足などを背景として、増加傾向にある耕作放棄地については、農地情報の適切な管理と農地利用を推進し、耕作放棄地の発生抑制を目指します。

【郊外既存集落の維持・活性化】

- 高齢化や人口流出によって、衰退が懸念される郊外の既存集落については、コミュニティの維持・活性化を図るため、他都市からの住み替えやU・J・Iターンなどの新たな人口流入の促進に寄与する都市計画制度等の導入を検討します。
- 都市計画制度等の導入により、集落で発生している空き家や耕作放棄地については、地域活力の創出に向けて、農家民宿や体験農園などとしての利活用を促進し、都市と農村の交流拠点としての再生を目指します。

② 交通体系の整備方針

【幹線道路の整備促進】

- 市街地から秋田北インターチェンジに連結する都市計画道路外旭川上新城線の適切な管理を図り、高速道路へのアクセス性を維持します。
- 地域内を通る外周部環状道路や市街地環状道路などの環状道路については、関係機関との調整を図りながら、未整備区間の計画的な整備を促進します。
- 外周部環状道路に連絡する放射道路や環状道路網を相互に連絡する分散導入路については、その機能の維持・向上に向けた適切な管理を促進します。

【持続可能な公共交通の確保】

- 地域住民の日常の交通拠点となる土崎駅や追分駅など鉄道駅については、バス交通との連携強化など交通結節機能の充実を図るとともに、駅周辺での駐輪場などの利活用を図り、ライドアンドライドなど低炭素型の地域内移動を促進します。

- マイタウン・バスの活用など、地域内移動の円滑化に向けたバス路線の再編・充実を促進します。
- 都市計画道路泉外旭川線による交通環境の変化を見極め、JR との連携を図りながら、泉・外旭川地区における新駅の方向性を検討します。

【秋田港の活用に向けた環境整備】

- シーアンドレール構想の促進による産業機能の増進を見据え、秋田港と周辺道路網との連携強化を図ります。
- 港湾周辺における交通渋滞の緩和や港湾荷役の効率化に向けて、都市計画道路大浜上新城線の計画的な整備を推進し、秋田港と高速道路間のアクセス性の向上を目指します。

【安全で快適な生活道路の整備】

- 住宅が密集した地域や狭隘道路が残されている地域、小中学校などの通学路については、住民の協力を得ながら地区計画等のまちづくりのルールを導入し、災害時などに緊急車両が円滑に通行できる道路幅員の確保や、子どもから高齢者まで、誰もが安全に通行できる歩行者環境の改善を目指します。

③ その他の方針

【観光型まちづくりの促進】

- 河川や緑地など、本地域の豊かな自然環境を活かしながら、史跡秋田城跡や県立小泉潟公園をはじめとする地域の名所を巡る回遊ルートを設定し、各拠点が有機的に結ばれた水と緑のネットワークを形成します。
- 市民や行政、商工会などの多様な主体の連携・協働により、地域資源を紹介する案内板の設置やサインの整備、パンフレットの作成など、交流人口の拡大に向けた取組を促進します。
- 北部市民サービスセンターやセリオンなどの既存施設を活用しながら、^{ひきやま}曳山など、地域独自の祭やイベントなどを広く PR する情報発信拠点づくりを促進するとともに、新たなイベントの創設など、ソフト面での魅力づくりに取り組みます。

【広域公園の活用】

- 県立小泉潟公園については、追分駅や都市計画道路横山金足線など近隣の広域交通網を活かしたアクセス性の向上を図りながら、潟などの特色ある自然環境や県立博物館などの文化拠点を活かした魅力あふれる広域公園として、積極的な PR 展開と利活用を促進します。
- 大滝山自然公園については、都心部からのアクセス性の向上を図りながら、市民や来訪者が自然と親しめる公園として積極的な PR 展開と利活用を推進します。

- 高清水公園については、多様な生き物が生息する特色を活かし、市民が身近に生物と親しめる公園として、イベントなどのソフト面の充実を図ります。

【地域資源を活かした魅力ある景観づくり】

- 土崎地区においては、電線類の地中化により古くからの港町としての趣きを活かした景観づくりが進められており、今後も敷地内緑化の推進などによる良好な街なか景観づくりを促進します。
- 草生津川では、桜やコスモスなどの植栽によって、良好な河川景観が形成されています。今後も、市民や行政など多様な主体の連携・協働によって、魅力ある河川景観の維持・保全を図ります。
- 海に沈む夕日や臨海部の工業地帯の夜景など、地域独自の海岸景観を活かし、ビューポイントの整備やPRを促進します。
- 郊外での無秩序な開発行為等の防止により、地域の東側に広がる田園・丘陵地帯の良好な自然景観の保全を図ります。

【安全安心なまちづくり】

- 公共施設をはじめとする既存ストックを活用しながら、緊急時の避難場所など、防災拠点となる施設の適切な配置と機能の充実を図り、安全安心なまちづくりを目指します。
- 台風や大雨などによる浸水被害の防止に向けて、河川改修などを促進します。
- 海岸部や河川については、適正な排水処理による水質の保全を図り、美しい水環境の確保を図ります。
- 少子高齢化を踏まえ、地域内の防犯活動や除雪作業など、地域コミュニティによる自助・協力体制の強化・連携を図り、誰もが安全安心に暮らせる地域づくりを目指します。

■ 北部地域構想図

【観光型まちづくりの促進】

- 豊かな自然を活かした史跡・公園などの名所を巡る回遊ルートの設定
- 多様な主体の連携・協働による地域内の名所や回遊ルートを紹介する案内板の設置やサインの整備、パンフレットの作成
- 既存施設を活用し、曳山車などの地域独自の祭・イベントなどをPRする情報発信拠点づくり

- 追分駅周辺においては、近隣に県立小泉湧公園と県立大学が立地するポテンシャルを活かし、にぎわいの創出に資する施設が進出しやすい環境づくりを促進

【持続可能な公共交通の確保】

- 鉄道駅のバス交通との連携強化など交通結節機能の充実を図り、駅周辺での駐輪場などの利活用によるライドアンドライドなど低炭素型の地域内移動を促進
- マイタウン・バスの活用など、地域内移動の円滑化に向けたバス交通の再編・充実
- 都市計画道路泉外旭川線による交通環境の変化を見極め、JRとの連携を図りながら、泉・外旭川地区における新駅の方向性を検討

- バス路線をはじめとする公共交通軸沿線における、既存ストックを活かした生活利便性の高い沿道型居住市街地の形成

【空き家・空き地の有効活用】

- 市街地内の空き家や空き地などの低未利用地は、所有者の協力を得ながら、農産物の直売所や地域コミュニティの交流の場、駐車場、除雪スペース等としての有効活用を検討

【地域中心（土崎地区）の都市機能】

- 人が集うにぎわいのあるまちを目指し、商業、工業、行政など既存都市機能の維持・充実に向け、多様な主体の連携により関連施設が進出・集積しやすい環境づくりを促進
- 駅周辺に自動車移動に頼らない身近な買い物の場を確保するため、都市計画制度等の導入を図りながら、街なかの商店街と幹線道路沿道のサービス施設との役割分担を明確にし、両者が共存した地域商業の活性化を促進
- 電線類の地中化や敷地内緑化など、古くからの港町としての趣きを活かした都市景観づくりの促進
- 地域の生活情報を発信する情報拠点づくり

【産業振興と地域の活性化に向けた秋田港の活用】

- シーアンドレール構想の促進による、秋田港における産業機能の増進に向けた環境整備と周辺交通網との連携強化
- コンテナ貨物やフェリー貨物の安全で安定した輸送の確保と地域の産業振興に資する物流の効率化に向け、船舶の安定運航の確保に必要な施設整備を促進
- 港湾周辺の交通渋滞緩和および港湾荷役の効率化に向けた、高速道路からのアクセス性の向上
- 周囲の良好な自然資源との調和を図り、セリオンをはじめとする既存拠点を活用した、海の玄関口にふさわしい、人が集いにぎわう魅力ある港づくりを促進
- 海辺に親しめる空間としての港湾環境の整備

【郊外既存集落の維持・活性化】

- 既存集落の維持・活性化に向けて、都心部からの住み替えやU・J・Iターンなどの新たな人口流入の促進に寄与する都市計画制度等の導入を検討
- 空き家・耕作放棄地の利活用による、農家民宿などの都市・農村交流拠点づくり

【自然環境の保全・管理】

- 市民や企業、行政など多様な主体の連携・協働による、豊かな森林環境の保全・管理
- 多様な主体の協働に基づく積極的な美化活動による河川環境の保全と魅力ある河川景観の創出
- 適正な排水処理による水質の保全

【田園環境の保全・管理】

- 無秩序な開発の抑制による良好な営農環境の維持・保全
- 農地情報の適切な管理と農地の積極的な利用にもとづく耕作放棄地の発生抑制
- 農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修による農業生産環境の向上

【地域資源を活かした魅力ある景観づくり】

- 海に沈む夕日や臨海部の工業地帯の夜景など、地域独自の海岸景観を活かし、ビューポイントの整備やPRを促進
- 郊外での無秩序な開発行為等の防止により、田園・丘陵地帯の良好な自然景観を保全

【安全安心なまちづくり】

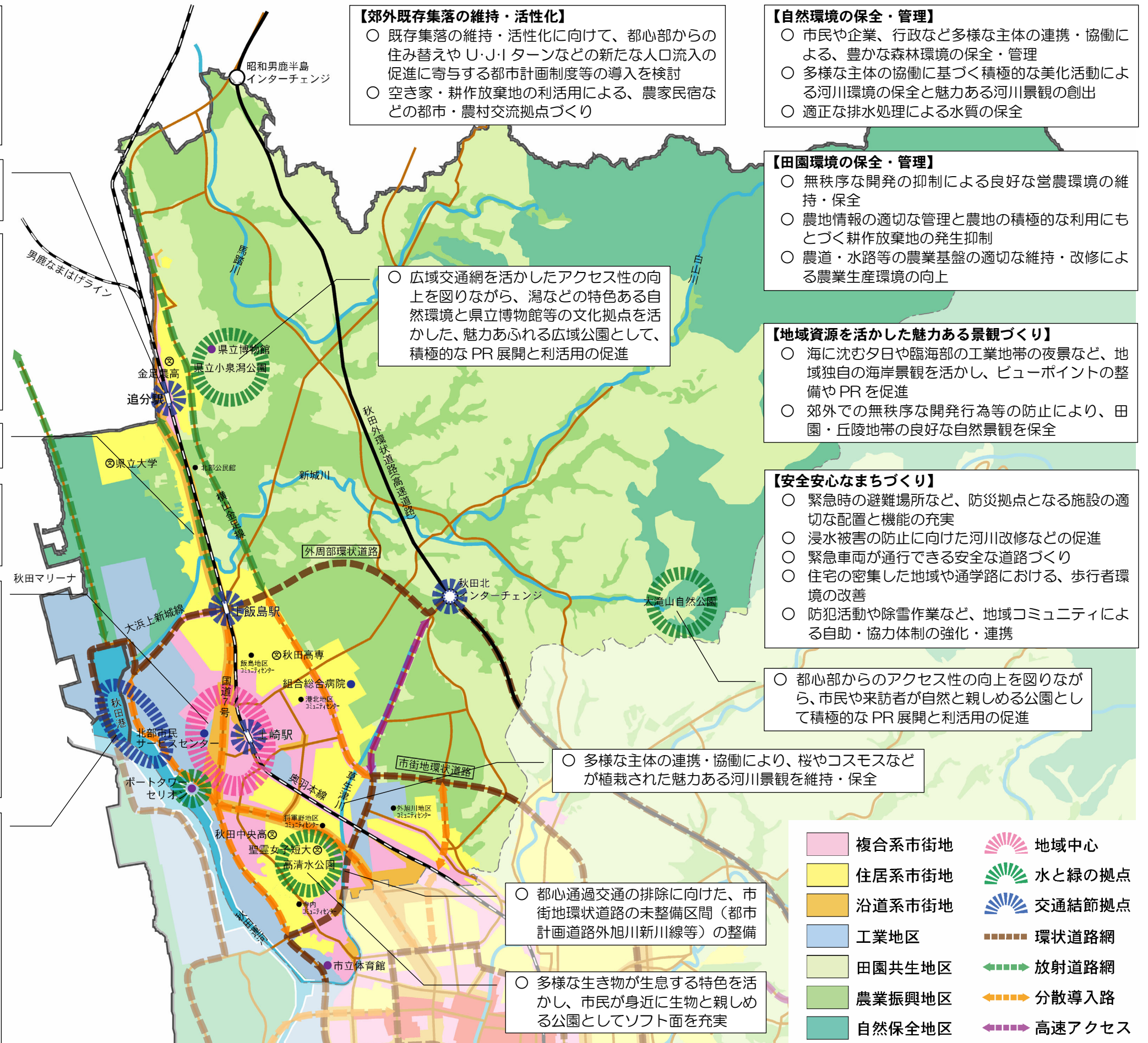
- 緊急時の避難場所など、防災拠点となる施設の適切な配置と機能の充実
- 浸水被害の防止に向けた河川改修などの促進
- 緊急車両が通行できる安全な道路づくり
- 住宅の密集した地域や通学路における、歩行者環境の改善
- 防犯活動や除雪作業など、地域コミュニティによる自助・協力体制の強化・連携

- 都心部からのアクセス性の向上を図りながら、市民や来訪者が自然と親しめる公園として積極的なPR展開と利活用の促進

- 多様な主体の連携・協働により、桜やコスモスなどが植栽された魅力ある河川景観を維持・保全

- 都心通過交通の排除に向けた、市街地環状道路の未整備区間（都市計画道路外旭川新川線等）の整備

- 多様な生き物が生息する特色を活かし、市民が身近に生物と親しめる公園としてソフト面を充実



6 河边地域

（１）地域の概要

① 概況

河辺地域は、和田駅の北側から国道 13 号にかけて市街地が形成されており、地域を東西に流れる岩見川等の河川沿いに集落や田園が広がる緑豊かな環境です。

和田地区には、旧役場庁舎を活用した河辺市民サービスセンターなど行政機能が立地しており、商業機能は和田駅周辺および国道 13 号沿道に見られます。

また、インターチェンジや空港に近接した七曲臨空港工業団地が立地しているほか、太平山県立自然公園など郊外に広がる自然環境、地域の歴史を伝える旧羽州街道や豊島館跡など多様な特性を有しています。

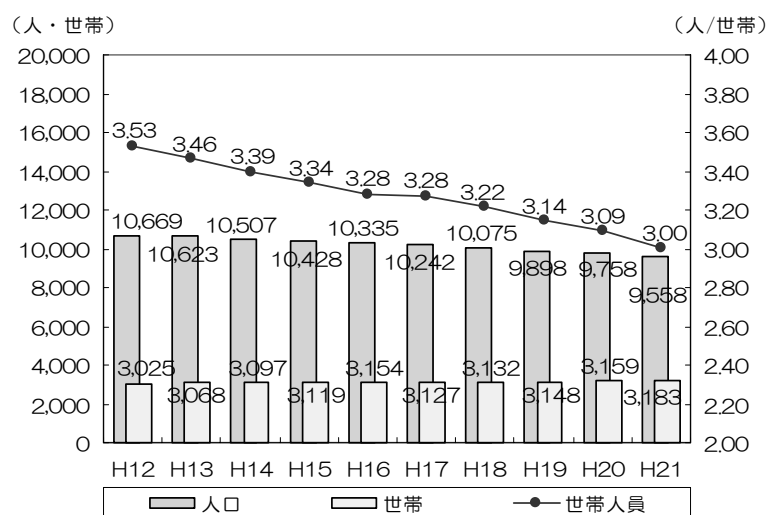


② 人口・世帯数の推移

河辺地域の平成 21 年 10 月 1 日時点の人口は 9,558 人となっており、平成 12 年からの 10 年間で約 10.4% (1,111 人) 減少しています。

一方、世帯数は、平成 21 年で 3,183 世帯と 10 年間で約 5.2% (158 世帯) 増加しています。1 世帯当たりの人員は 3.53 人/世帯から 3.00 人/世帯に減少しており、核家族化や単身世帯が進行しています。

地域内の年齢別人口構成比（平成 17 年国勢調査より）をみると、年少人口（15 歳未満）が 10.6%、生産年齢人口（15～64 歳）が 57.5%、老年人口（65 歳以上）が 31.9%と、7 地域の中で老年人口の割合が最も高い地域となっています。



※住民基本台帳（各年10月1日時点）より。H12.17は国勢調査結果

③ 土地利用の状況・課題

河辺地域の面積は約 30,110ha で、そのうち約 2 割（約 5,620ha）が河辺都市計画区域（非線引き都市計画区域）に指定されています。

和田駅周辺および七曲臨空工業団地が用途地域（約 140ha）に指定されています。地域内は広く農業地域の農用地区域（約 1,850ha）、森林地域の国有林（約 17,450ha）、地域森林計画対象民有林（約 3,630ha）、保安林（約 3,190ha）が指定されています。

北東部は、太平山県立自然公園として自然公園地域の特別地域（約 2,180ha）が指定されており、また、一部地域が自然保全地域の特別地域（約 130ha）に指定されています。

【商業・業務地】

和田駅周辺に商業系用途が指定されていますが、隣接する南部地域に大規模商業施設が立地していることなどもあり、商業施設の集積はなく、国道 13 号沿道の工業系用途に商業施設が点在しています。

【住宅地】

和田駅周辺の住宅系用途に低層住宅が集積していますが、その他は集落ごとに住宅地がまとまって見られます。

人口減少による空き家の発生や高齢化に伴う高齢者世帯の増加が課題となっており、空き家の有効活用とともに、高齢者の生活をサポートする仕組みづくりが求められています。

【工業地】

地域の南側に七曲臨空港工業団地が整備されています。ただし、未分譲地も残されており、高速道路網や空港などの高速交通網を活かした、企業誘致などによる土地の有効活用が求められています。

【農地・自然環境】

地域の東部には太平山県立自然公園など豊かな自然環境が広がっています。近年では、生活様式の変化や林業の停滞などにより、維持管理されない森林も増えており、適正な維持管理が必要です。

岩見川沿いに広がる平野部には、まとまった優良農地が確保されており、良好な田園空間が形成されていますが、その一方で、後継者不足、高齢化などにより耕作放棄地も増えています。今後も貴重な農業生産の場として、さらには交流の場として、都市・農村交流や人材の育成などによる適切な活用と管理が望まれます。

岩見川については、水量の増加などによる水害の恐れがあることから、引き続き防災対策の充実など、安全・安心な地域づくりに向けた対策が求められています。

ホタルなどが飛び交う豊かな生き物環境が残されており、適切な維持管理のもと生き物環境の保全を図る必要があります。

【その他の拠点・都市機能】

和田駅周辺には、河辺市民サービスセンターなどの行政機能が整備されていますが、その他の文化機能や医療機能などの都市機能が不足しており、他地域の都市機能の活用も含めた対応が求められています。

④ 交通施設の整備状況・課題

【地域間・地域内交通】

外周部環状道路に連絡し連続性のある幹線道路網を形成する放射道路として、国道13号が整備されています。

用途地域内には未整備路線も見られ、計画的な整備が望まれます。

【公共交通】

本地域には、JR 奥羽本線の和田駅、大張野駅が整備され、マイタウン・バスも整備されています。しかし、鉄道とバスの乗り継ぎの不便さや運行本数の減少といった課題を有しており、利用者も減少傾向にあります。市民の日常の交通手段として、連携強化による機能の充実や利便性の向上が望まれます。

⑤ その他の状況・課題

【景観形成】

旧羽州街道周辺においては、歴史的な雰囲気^{うやしな}を継承する街並みづくりなど、歴史性を活かした、魅力ある景観づくりを進めていく必要があります。

太平山や筑紫森などの自然豊かな森林や岩見川などの河川の自然景観、^{うやしな}鵜養などの農地と茅葺民家などで構成するのどかな田園景観の保全を図ります。また、岩谷山、へそ公園などから雄大な眺望景観が広がっており、適切な保全に努めます。

(2) 目指すべき地域の姿

大自然に抱かれた清流岩見川と空陸交通の拠点のまち

- 太平山など秋田を象徴する 自然環境を活かしたまちづくり
- 農業や歴史、交通環境を活かした にぎわいを生み出すまちづくり
- 安心して住み続けることのできるまちづくり

本地域は、太平山県立自然公園や岩見川など豊かな自然環境が広がり、農産物の生産など農林業も盛んに行われています。また、旧羽州街道沿いの街並み、茅葺民家など地域の歴史を伝える資源も残されています。

さらに、秋田空港が近接し、地域内に日本海東北自動車道秋田空港インターチェンジが整備されているなど、空と陸とを結ぶ交通の要衝でもあります。

これらの自然、歴史・文化、交通環境などを活かしながら、地域コミュニティの充実、都市と農村との交流などによりにぎわいを生み出す拠点地域の形成を目指します。

市内でも高齢化の進んでいる地域であり、近隣地域との日常生活を支える都市機能の連携を図りながら、鉄道やバス交通などの公共交通の充実を図り、安心して住み続けることのできる地域づくりを進めます。

(3) まちづくりの方針

① 土地利用の方針

【利便性の高い地域中心の形成】

- 交通結節機能を有する和田駅を中心として、行政・文化機能や商業施設が集積している和田地区を、河辺地域の地域中心として位置づけます。
- 地域住民の生活拠点として、日常的な買い物をまかなう商業機能や医療・福祉機能、市民サービスを提供する公共公益機能の充実に向けた環境整備を促進し、利便性の高いまちを目指します。
- 和田駅周辺においては、高齢者が不自由なく快適に移動できるよう、自家用自動車交通に依存しない、鉄道やバス、タクシーなど、各種交通の乗り継ぎ拠点機能の充実を図ります。
- 地域内人口の減少や高齢化を見据え、地域中心への都市機能の充実と連携した、街なかへの住み替えや家屋の共同化、空き家など既存ストックの活用などによる職住近接の良質な居住環境を形成し、地域中心での街なか居住を促進します。
- 河辺市民サービスセンターを拠点に、地域における市民協働・都市内地域分権を推進するとともに、地域内の交流強化、市民や来訪者への地域情報の発信拠点としての活用等を進めます。

【計画的な土地利用の誘導】

- コンパクトな市街地形成による持続可能な都市の実現に向けて、市街化を促進する市街化区域と、市街化を抑制する市街化調整区域を区分する「線引き都市計画区域」である秋田都市計画区域との統合を目指します。
- 線引き都市計画区域への移行による、無秩序な開発行為等の防止と地域中心への都市機能の集積を図るとともに、郊外の既存集落の維持・活性化に資する都市計画制度の導入を検討します。

【工業地の環境整備】

- 高速道路や空港などへのアクセスしやすい交通環境、周辺の豊かな自然環境を活かし、七曲臨空港工業団地への環境・情報関連企業など幅広い企業誘致を促進し、周辺環境と調和した快適な操業環境の維持・増進を図ります。

【自然環境の保全・管理】

- 太平洋山県立自然公園など本地域の東側に広がる森林については、多様な生き物の生息環境であるとともに、田園や集落と一体的な本地域の自然景観の象徴であることから、防災や無秩序な開発の抑制に取り組みながら、市民や企業、行政など多様な主体の連携・協働による森林環境の保全・管理を図ります。
- 地域内を流れる岩見川などの河川については、景観に配慮した整備を促進し、水質の維持や美化活動など、多様な主体の協働に基づく河川環境の保全を図ります。
- 水辺に親しめるサイクリングロードや遊歩道の充実など、河川やダム湖などを活かした魅力ある環境の創出を促進します。

【田園環境の保全・管理】

- 岩見川などの河川沿いに広がる田園地帯については、無秩序な開発の抑制により良好な田園環境の維持・保全を図るとともに、農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修により農業生産環境の向上を促進し、優良農地の保全を目指します。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足などを背景として、増加傾向にある耕作放棄地については、農業者だけでなく、地域住民や関係団体等が一体となった農地の保全に取り組むとともに、農村の自然や景観などを守る地域活動などにより、田園環境の維持・保全を図ります。

【郊外既存集落の維持・活性化】

- 高齢化や人口流出によって、衰退が懸念される郊外の既存集落については、コミュニティの維持・活性化を図るため、他都市からの住み替えやU・J・Iターンなどの新たな人口流入の促進に寄与する都市計画制度等の導入を検討します。

- 都市計画制度等の導入により、集落で発生している空き家や耕作放棄地については、地域活力の創出に向けて、農家民宿や体験農園などとしての利活用を促進し、都市と農村の交流拠点としての再生を目指します。

② 交通体系の整備方針

【幹線道路の整備促進】

- 秋田空港インターチェンジから秋田空港へ連絡する幹線道路の適切な管理を図り、高速道路へのアクセス性を維持します。
- 外周部環状道路に連絡する放射道路については、その機能の維持・増進に向けた適切な管理を促進します。

【持続可能な公共交通の確保】

- マイタウン・バスの路線網の再編やタクシーなどの利活用を含めた民間活力の導入促進により、公共交通の充実を目指します。
- 鉄道の運行本数の増加等に向けた働きかけや、パークアンドライドやライドアンドライドの促進に向けた駅周辺環境の整備などを目指します。

【安全で快適な道路環境づくり】

- 道路改良や冬期の安全対策の充実などによる、安全で快適な自動車、歩行者ネットワークの形成を図ります。
- 地域住民の連携による草刈り活動など、良好な沿道景観づくりに向けた取組を促進します。

③ その他の方針

【観光型まちづくりの促進】

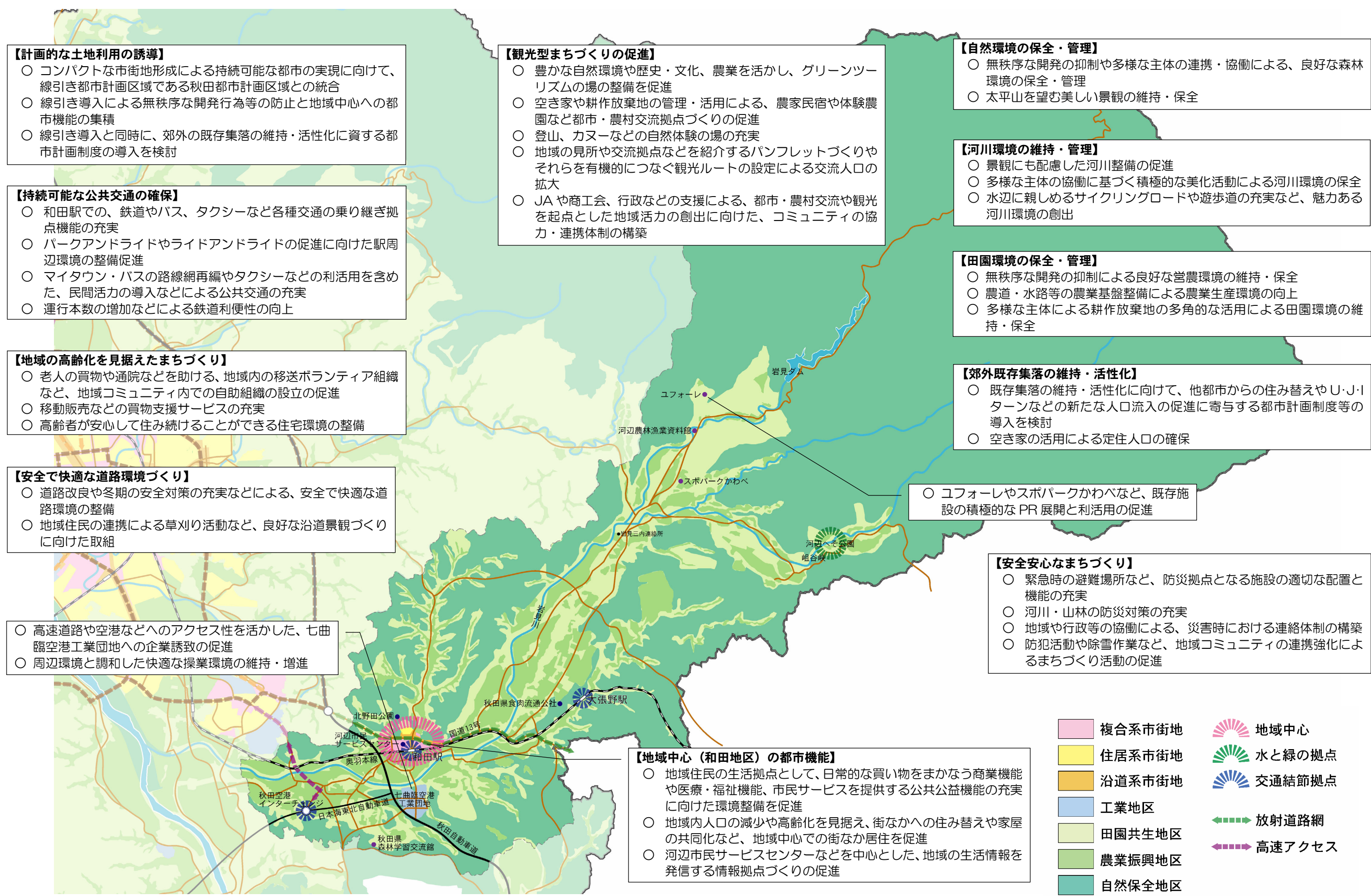
- 地域の豊かな自然環境や歴史・文化、農業を活かしながら、空き家や耕作放棄地を活用した農家民宿や体験農園など、グリーンツーリズムの場の整備を促進します。
- 登山やカヌーなど、気軽に自然に親しめる場の充実を促進します。
- 太平山や岩見川など美しい自然景観、茅葺民家や旧羽州街道沿いの街並み、桜の名所など地域の見所や交流拠点などを紹介するパンフレットづくりとともに、それらを有機的につなぐ観光ルートの設定による交流人口の拡大を図ります。
- JA や商工会、行政などの支援のもと、都市・農村交流や観光による地域活力の創出に向けた、地域コミュニティの協力・連携体制の構築を図ります。
- 歴史的景観が残る鵜養地区において、伝統的な集落景観の保全に努めるとともに、都市と農村の交流につながる活用方策について検討します。

- ユフォーレやスポパークかわべなど、地域の既存施設の有効活用に向けた、市内外への積極的な PR の実施に取り組みます。

【安全安心なまちづくり】

- 河川や山林の防災対策の充実とともに、緊急時の避難場所など防災拠点となる施設の適切な配置と機能の充実を図り、安全安心なまちづくりを目指します。
- 地域と行政等の協働による、市街地や農村地域における災害時の連絡・救助体制の構築を図ります。
- 防犯活動や除雪作業など、住民同士が支えあう地域コミュニティの連携強化によるまちづくり活動を促進します。
- 高齢者が安心して住み続けることができるように、高齢者の買物や通院などを助ける地域内の移送ボランティア組織など、地域コミュニティ内での自助組織の設立や、移動販売などの買物支援サービスの充実、多様なニーズに対応した住宅環境の整備などを総合的に促進します。

河辺地域構想図



7 雄和地域

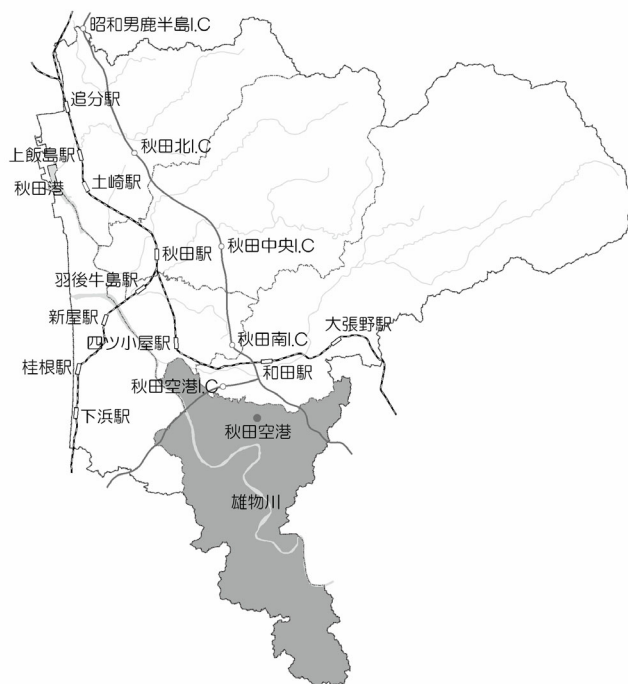
(1) 地域の概要

① 概況

雄和地域は、地域の中央を県内最大の一級河川である雄物川が流れ、周辺には高尾山などの山並みが広がり、水と緑に恵まれた地域です。

妙法地区には、雄和市民サービスセンターとともに、教育・文化・スポーツ施設が立地しています。

また、地域内には秋田空港を有するとともに、国際教養大学や県農業試験場など学術・研究施設、県立中央公園や温泉施設、高尾山レクリエーション施設などの観光・レクリエーション施設も充実しています。



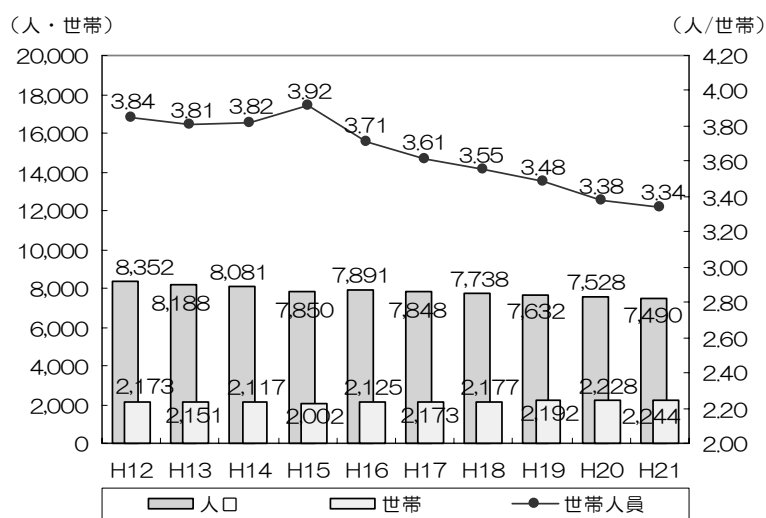
② 人口・世帯数の推移

雄和地域の平成 21 年 10 月 1 日時点の人口は、7 地域の中で最も少なく 7,490 人となっており、平成 12 年からの 10 年間で約 12.7% (862 人) 減少しています。

一方、人口減少が進む中で世帯数は、平成 21 年で 2,244 世帯と 10 年間で約 3.3% (71 世帯) 増とほぼ横ばいで推移しています。

1 世帯当たりの人員は 3.84 人/世帯から 3.34 人/世帯に減少していますが、他地域に比べると比較的高い世帯人員となっています。

地域内の年齢別人口構成比（平成 17 年国勢調査より）をみると、年少人口（15 歳未満）が 9.4%と 7 地域の中で最も低い割合を示しています。また、生産年齢人口（15～64 歳）が 59.0%、老年人口（65 歳以上）が 31.6%となっており、老年人口の割合は河辺地域に次いで高い地域となっています。



※住民基本台帳（各年 10 月 1 日時点）より。H12,17 は国勢調査結果

③ 土地利用の状況・課題

雄和地域の面積は 14,450ha で、そのうちの約 3 割（約 4,820ha）が河辺都市計画区域（非線引き都市計画区域）に指定されていますが、用途地域指定はありません。

雄物川沿いには農業地域の農用地区域（約 2,300ha）が指定されており、その周囲は森林地域の国有林（約 100ha）、地域森林計画対象民有林（約 8,940ha）、保安林（約 230ha）が指定されています。

【商業・業務地】

本地域の商業地としては、各集落に立地する小売店舗がその役割を果たしています。

また、行政機能などを有する妙法地区には、日常生活に必要な商品を購入できる商店等の立地が見られますが、商業集積としては十分とは言えず、身近な商業機能の整備が求められています。

【住宅地】

地域全体としては、妙法地区をはじめ集落ごとに低層の住宅地が分布しています。人口減少による空き家の発生や高齢化に伴う高齢者世帯の増加が課題となっており、空き家の有効活用とともに、高齢者の生活をサポートする仕組みづくりが求められています。

【農地・自然環境】

雄物川沿いの平野部には、まとまった優良農地が確保されており、良好な田園空間が形成されています。雄物川沿いの農地については、遊水池としての機能も果たしており、今後も多面的な役割を果たす貴重な空間として適切な保全・管理が望まれます。

また、雄物川の周囲には、高尾山などの豊かな森林環境が広がっています。

【その他の拠点・都市機能】

妙法地区には、雄和市民サービスセンターや雄和図書館、雄和体育館などの公共公益機能が立地しています。ただし、総合病院などの高度な医療施設や福祉施設など、その他の都市機能が不足している状況にあります。

観光拠点としては、秋田空港に近接する県立中央公園、豊かな自然環境を活かした高尾山一帯のレクリエーション施設などが整備されており、交流人口の拡大と地域の活性化に向けた活用が求められています。

また、地域の北側には、国際教養大学が立地しており、大学と地域の連携による活力創出が期待されます。

④ 交通施設の整備状況・課題

【地域間・地域内交通】

市街地環状道路に位置づけられている国道 13 号に連絡する道路として、県道秋田雄和本荘線が整備されています。また秋田空港に連絡する道路として、県道秋田御所野雄和線が整備されています。

【公共交通】

本地域には鉄道は整備されておらず、バス交通が本地域における公共交通の中心となっています。しかし、バス路線網から外れた地域での公共交通手段の欠如など、課題も有していることから、公共交通の更なる利便性向上に向けた対応が求められています。

⑤ その他の状況・課題

【景観形成】

雄物川と田園、山林とが一体的となった雄大な景観が広がっており、適正な維持管理による景観の保全が求められています。また、高尾山や白根館からの眺望景観の確保のための取組も望まれます。

良好な自然環境が保全されている証でもある白鳥やホタルなどの生き物も見られることから、引き続き貴重な生物生息環境の保全が求められています。

(2) 目指すべき地域の姿

秋田空港と自然色豊かな 田園のまち

- 秋田空港や高速道路などの広域交通環境を活かしたまちづくり
- 安心して住み続けられる 生活に必要な機能が充足したまちづくり
- 住民や大学、国内外との交流による 活力のあるまちづくり

本地域は、雄物川と河川沿いに広がる田園、山林などの豊かな自然環境が広がり、ホタルなどの生き物が飛び交う環境が残されている地域です。また、県立中央公園や高尾山などの観光・レクリエーション施設とともに、国際教養大学や県農業試験場などの学術・研究の拠点も立地する地域です。さらに、本県の空の玄関口となる秋田空港があり、日本海東北自動車道秋田空港インターチェンジに近接するなど、空と陸とを結ぶ交通の要衝でもあります。

現在は自動車交通への依存度の高い地域ですが、身近な場所への生活に必要な機能や、バス交通などの公共交通の充実を図り、安心して住み続けることのできる地域づくりを進めます。

本地域は、高齢化が進んでいるものの、地域コミュニティの活動が活発で、団結力があるなど、地域住民が支え合う意識の高い地域です。今後も、豊かな自然や恵まれた広域交通環境の活用とともに、地域コミュニティや地域内に立地する施設などとの連携により、地域間交流や都市と農村との交流など、活力を生み出すまちづくりを目指します。

(3) まちづくりの方針

① 土地利用の方針

【利便性の高い地域中心の形成】

- 行政・文化機能を有し、地域内で最も商業施設が集積している妙法地区を、雄和地域の地域中心に位置づけます。
- 地域住民の身近な生活拠点として、既存の行政・文化機能を活かしながら、日常の買い物をまかなう商業機能や飲食店などの娯楽機能の充実に向けた環境整備を促進します。
- 地域中心にふさわしい秩序ある市街地形成に向けて、用途地域の新規指定など、計画的な土地利用誘導方策の導入を検討します。
- 秋田空港や秋田空港 I.C に近接する地域特性を活かし、商業・業務機能などの進出を促す環境整備を促進します。
- 地域内人口の減少や高齢化を見据え、地域中心への都市機能の充実と連携し、既存ストックを活用しながら、地域内における定住人口の確保のための緑に囲まれたゆとりのある良好な居住環境の形成を図ります。
- 雄和市民サービスセンターを拠点に、地域における市民協働・都市内地域分権を推進するとともに、地域内の交流強化、市民や来訪者への地域情報の発信拠点としての活用等を進めます。

【計画的な土地利用の誘導】

- コンパクトな市街地形成による持続可能な都市の実現に向けて、市街化を促進する市街化区域と、市街化を抑制する市街化調整区域を区分する「線引き都市計画区域」である秋田都市計画区域との統合を目指します。
- 線引き都市計画区域への移行による、無秩序な開発行為等の防止と地域中心への都市機能の集積を図るとともに、郊外の既存集落の維持・活性化に資する都市計画制度の導入を検討します。

【自然環境の保全・管理】

- 市民や行政など多様な主体の連携・協働により、無秩序な開発の抑制とともに適正な維持管理を行いながら、山林の豊かな森林環境や雄物川などの河川環境の保全活動を促進します。
- 高尾山をはじめとする山林や雄物川沿いに広がる田園空間など、良好な自然景観の保全を図ります。
- ホタルや白鳥などが生息する雄物川などの水辺環境については、良好な環境を保全し、地域資源を活かした地域の魅力づくりに努めます。

【田園環境の保全・管理】

- 雄物川などの河川沿いに広がる田園地帯については、無秩序な開発の抑制により良好な営農環境の維持・保全を図るとともに、農道・水路等の農業基盤の適切な維持・改修により農業生産環境の向上を促進し、優良農地の保全を目指します。
- 農業従事者の高齢化や後継者不足などを背景として、増加傾向にある耕作放棄地については、多様な作物の栽培による新たな特産品づくりなど、農業の活性化に取り組むとともに、田園環境の維持・保全を図ります。

【郊外既存集落の維持・活性化】

- 生活道路の改修や上下水道の整備など、生活環境の維持・改善に向けた取組を推進します。
- 既存集落の維持・活性化に向けて、他都市からの住み替えやU・J・Iターンなどの新たな人口流入の促進に寄与する都市計画制度等の導入を検討します。
- 一層の増加が懸念される空き家や耕作放棄地については、都市計画制度等の導入により、農家民宿など都市・農村交流拠点としての有効活用を促進します。

② 交通体系の整備方針**【安全で快適な道路環境づくり】**

- 通学路などにおける街灯や防犯灯の設置などによる、安全な道路環境づくりを進めます。
- 山間部における冬期の安全対策の充実などによる、安全で快適な自動車移動のための道路改良を促進します。

【持続可能な公共交通の確保】

- マイタウン・バスの路線網再編やタクシーなどの利活用を含めた、民間活力の導入などによる公共交通の充実を図ります。
- パークアンドライドやライドアンドライドなど、都心部までのアクセス性向上に向けた、周辺鉄道駅における交通結節機能の充実を促進します。

③ その他の方針

【地域特性を活かした活力の創出】

- 交流人口の拡大による地域活力の創出を目指し、秋田空港からのアクセス性の維持・充実を図るとともに、空港利用者の地域内への誘導に向けた観光拠点の整備とPRの充実、秋田空港から観光拠点を有機的に結ぶ観光ルートの設定などを促進します。
- 県立中央公園については、スポーツ・レクリエーションの拠点として、その機能の充実を図り、県内外の交流人口の拡大に向けた積極的な利活用を促進します。
- 地域の豊かな自然環境や農業環境を活かしながら、空き家や耕作放棄地を活用した農家民宿や体験農園など、グリーンツーリズムの場の整備を促進します。
- 秋田空港に近接する特性を活かし、新たなイベントなど市民の国際交流の場を創出します。
- 国際教養大学と地域との交流・連携、学生と住民との交流の場の創出による地域活力づくりを促進します。

【安全安心なまちづくり】

- 河川や山林の防災対策の充実とともに、緊急時の避難場所など防災拠点となる施設の適切な配置と機能の充実を図り、安全安心なまちづくりを目指します。
- 充実した地域コミュニティを活かし、防災・防犯活動や除雪作業など、住民同士が支えあう地域コミュニティの連携強化によるまちづくり活動を促進します。
- 高齢者が安心して住み続けることができるように、高齢者の買物や通院を助ける地域内の移送ボランティア組織など、地域コミュニティ内での自助組織の設立や、移動販売などの買物支援サービスの充実を促進します。
- 新たなイベントなどの実施による、住民間の交流機会の充実を図り、地域コミュニティの一層の強化を促進します。

雄和地域構想図

